

谷津田の森林に係る
保全計画策定予備調査業務委託

令和3年3月

千葉市

地区別カルテ

○保全の方向性（グルーピング）

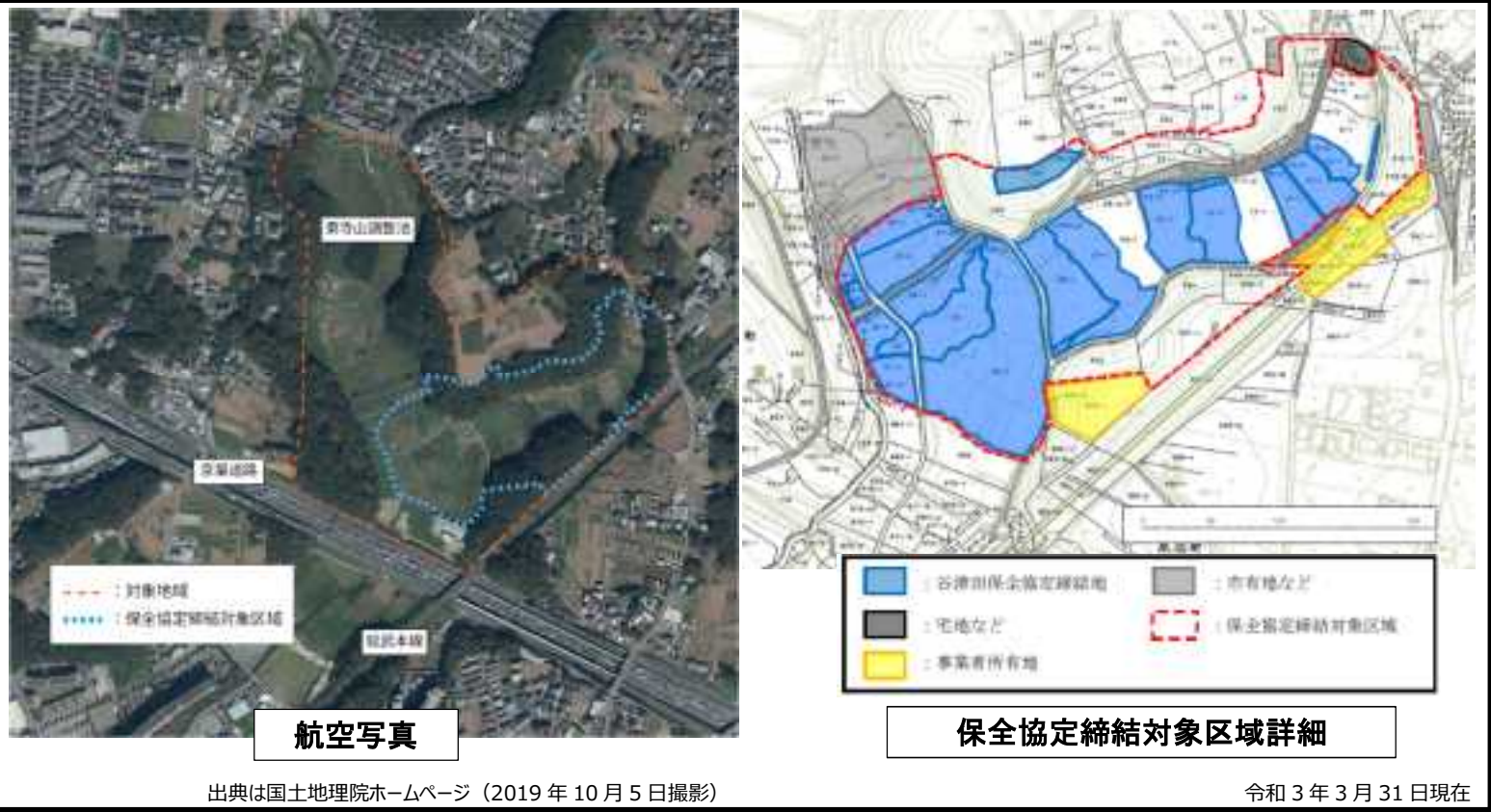
No.	地区名	主な所在地	保全協定締結対象区域(ha)	樹林管理	樹林管理数値	NPO等の活動団体と主な活動内容 ※樹林に関する活動は下線	NPO等活動数値	市民向けの活動やイベント	市民向け活動等数値	市民の利用状況	利用状況数値	保全地区や活動の指定・選定状況 (谷津田保全区域は除く)	指定状況数値	備考 (営農と放棄水田等の状況)	総合点
1	原(東寺山)	若葉区原町	4.05	一部の風倒木が整理されている	2	①北貝塚小学校とJA千葉みらい「ふれあい田んぼ」郊外学習事業を実施	1	特になし	0	散歩、散策(自然観察)	1		0	休耕地や放棄水田は少ない水田雑草が生育	4
2	金光院	若葉区金親町	11.52	一部のスギ植林内下草刈り 一部の竹林内の稈整理	2	①金光院SATOYAMA環境保全Group市と協働による谷津田の生き物保全を目的とした除草作業、水路整備、ビオトープ等整備、生物調査等	1	特になし	0	散歩 散策(自然観察) 探訪(歴史的遺物等)	1		0	半分以上が休耕地と放棄水田 大半はヨシだが、ヤナギが生育している場所もある	4
3	昭和の森(小山地区含む)	緑区小山町	9.37	一部のスギ植林内下草刈り	2	①NPO法人 ちば環境情報センター 小学校の米づくり体験、田んぼづくり ②NPO法人緑の環・協議会 植樹による緑地回復、雑草除去、自然観察会 ③NPO法人土気NGO 放棄水田を耕して、米作りを実施	1	特になし	0	散歩 散策(自然観察)	1		0	南側の谷津は大部分が放棄水田 大半はヨシが生育しているが、ヤナギが生育している場所もある	4
4	大草谷津田いきものの里	若葉区大草町	13.67	風倒木の整理 下草刈り(一部のみ) ハンノキ林周辺園路・水路の整備等	3	①田・森くらぶ 田んぼづくり・森づくり活動 ②大草調査隊 生物調査 ③東邦大学大草田んぼ会 田んぼづくり	2	自然観察会等(千葉市主催)	1	散歩 散策(自然観察)	1	・千葉市谷津田の自然保全施策指針に基づいて開発されたモデル地区 ・千葉市とボランティアが継続的に調査を実施している ・環境省モニタリング1000参加	1	最近放棄された水田はないヨシが生育する草原(市民利用部のみ)は定期的に草刈りを実施	8
5	下大和田西	緑区下大和田町	8.97	一部のコナラ林下草刈りと落ち葉掻き 一部のスギ植林内の下草刈り 一部の竹林内の稈整理	2	なし	0	特になし	0	ほとんどない	0		0	谷津下流部以外は全てが放棄水田 大半はヨシだが、アズマネザサが生育している場所もある	2
6	谷当	若葉区谷当町	7.63	コナラ林下草刈りと落ち葉掻き、植樹 スギ植林内の下草刈り、植樹 風倒木整理 幼個体保全	3	①NPO法人バランス21 米づくり講座ほか 田んぼづくり <u>里山林整備、</u> ビオトープ整備、自然観察会、生物調査	2	米作りと自然体験 自然観察等	1	散歩 散策(自然観察)	1	・環境省モニタリング1000参加 ・千葉市都市文化賞(景観まちづくり部門2019) ・印旛沼・流域再生大賞(2020)	1	谷津奥に休耕地があり、水田雑草が生育している ※セイタカアワダチソウの除草等は実施している。	8
7	下大和田(猿橋)	緑区下大和田町	3.71	一部の風倒木の整理 一部のコナラ林下草刈り	2	①NPO法人 ちば環境情報センター <u>ちば里山くらぶ</u> (林や田んぼ周辺の手入れ) 自然観察会とゴミ拾い 谷津田の米づくり講座、田んぼづくり	2	自然観察会 米作り講座等	1	散歩 散策(自然観察)	1	環境省の生物多様性保全上重要な里地里山(略称「重要里地里山」) ※全国500箇所、千葉県19箇所、千葉市に2箇所	1	半分以上が休耕地と放棄水田 大半は水田雑草だが、ヤナギが生育している場所もある	7
8	千葉中(中野IC)	若葉区中野町	1.96	ほとんど管理されてない	1	なし	0	特になし	0	ほとんどない	0		0	谷津全てが放棄水田 大半はヨシだが、ヤナギが生育している場所もある	1
9	赤井	中央区赤井町	1.89	ほとんど管理されてない	1	なし	0	特になし	0	ほとんどない	0		0	谷津全てが放棄水田 大半はヨシだが、ヤナギ等が生育している場所もある	1
10	金親	若葉区金親町	7.09	一部のコナラ林下草刈りと落ち葉掻き 一部のスギ植林内の下草刈り 一部の竹林内の稈整理	2	なし	0	特になし	0	散歩 散策(自然観察)	1		0	谷津の奥に放棄水田がある 大半はヨシだが、アズマネザサが生育している場所もある	3

注:数値化の基準は項目によって設定した。詳細については以下に示すとおりである。
「樹林管理」 3:下草刈り、風倒木の整理、落ち葉掻き、竹林整備等の様々な管理が実施されている、 2:下草刈りや竹林整備等の管理が多少なりとも実施されている、 1:ほとんど樹林管理は実施されていない
「NPO活動」 2:NPO等があり谷津田の周辺樹林に関する活動を行っている、 1:NPO等があるが谷津田の周辺林に関する活動を行っていない、 0:NPO等の活動がない
「市民向け活動等」 1:定期的に一般市民向け活動がある、 0:一般市民向けの活動はない
「利用状況」 1:周辺住民や一般市民が指定区域を散歩や散策等に利用している、 0:周辺住民や一般市民は指定地域をほとんど利用していない
「指定状況」 1:国の保全地域やモデル地区等として指定・選定されている、環境省のモニタリング1000に参加している、 0:国の保全地域やモデル地区等として指定・選定されていない、環境省のモニタリング1000に参加していない

優先度/色分け	総合点	優先度の主な内容と今後の対応等
A	6以上	市とNPO、ボランティア等が協力し、優先的に森林部分の保全を実施していく地区。
B	3～5	市は当面は必要に応じて風倒木の整理やナラ枯れ等の緊急対策を行う。市民利用があるため将来的に森林等の保全を検討する地区。
C	2以下	市は当面は必要に応じて風倒木の整理やナラ枯れ等の緊急対応を行う。今後、放棄水田や周辺林の荒廃を防ぐ対策を検討する地区。

No. 1	原（東寺山）		
主な所在地： 若葉区原町の一部		集水域面積：	111 h a
水系： 葭川（都川流域）		対象区域：	22.00 h a
谷津田のタイプ： A、谷津改変型		保全協定締結対象区域：	4.05 h a
位置付け： 谷津田等保全地区（優先地区）		谷津田保全協定締結地：	2.63 h a

地域森林計画	区域番号	6 へ		
	千葉市森林整備計画の位置付け	区分	快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	
		施業の方法	複層林施業を推進すべき森林（択伐によるものを除く）	
保全状況	・対象区域内にある大半の農地が営農中であり、休耕田は少ない。 ・コナラ林やスギ・ヒノキ植林内の一部で風倒木の伐採や整理が行われている。 ・ムクノキ林やタブノキ林の林内にゴミの投棄が見られる。 ・竹林は管理が行われておらず、倒伏した竹が放置されている。 ・林縁に繁殖力が旺盛な外来種であるツルニチニチソウの逸出個体が繁茂している場所がある。 ・対象区域に隣接する東寺山調整池は千葉市によって定期的な草刈りが行われている。			
自然条件	地形	対象区域は千葉市のほぼ中央部にある都川流域の台地部に位置している。ローム台地に形成された谷津は、谷底部と台地との高低差は少なく、地形も複雑ではない。	水系	谷津田から流れ出た水は東寺山排水路を経由して約 1km 離れた葭川に流れ込む。なお、葭川は都川の支流であり若葉区源町の六方調整池を水源とし、本千葉町で都川と合流する。また、東寺山排水路と葭川の合流部は、中央区の東千葉付近である。
	景観	比較的開けた谷津田であるが、田んぼとその周辺にはコナラなどの広葉樹林や、スダジイやタブノキなどの常緑樹林が広がっており、自然と人間が調和した伝統的な生活と文化の姿といわれる里山の風景が残っている。		
	動物	過去の調査により、哺乳類 2 種、鳥類 1 種、爬虫虫類 3 種、両生類 5 種、昆虫類 151 種等の生息が確認されている。	植物	過去の調査により、植物は 385 種の生育が確認されている。
社会的条件	歴史的要素	保全協定締結対象区域の北側にある樹林から台地上の畑にかけて「殿山遺跡（包蔵地）」がある。この台地は「原城」と呼ばれる城址でもあり、下総の豪族である千葉氏の一族で、後に臼井城の城主となる重臣の原氏発祥の地と言われている。また、西側の農地と樹林にかけて「石神遺跡（集落跡、古墳）」がある。	施設	対象区域の北西に位置する谷津田北側上流域は、東寺山地区の土地区画整理事業実施時に調整池として整備された。現在は「東寺山調整池」として管理されている。調整池の周辺には遊歩道が整備されており、地域住民の散策や憩いの場として利用されている。
	周辺開発	対象区域は西側の京葉道路と、東側の総武本線が交差した北側に位置し、500m北側には千葉都市モノレールがある。谷津田の北側と東側の上流域は約 20～40 年前にかけて土地区画整理事業が実施され、谷津田を造成・宅地化し、現在は東寺山町と原町の住宅街となっている。	計画	対象区域は「市街化調整区域」に指定されており、開発行為は原則として制限されている。
活動状況	・北貝塚小学校がふれあい田んぼとして活用中。活動内容は、北貝塚小学校の生徒を JA 千葉みらい中央支店（女性部、地元組合員）の指導のもと、郊外学習事業として田植え体験、田んぼの見学、稲刈り体験等を実施している。なお、JA 千葉の広報誌には 2019 年の田植え体験授業は 18 回目になると記載されていた。			



今後の方向性	優先度 B ※	市は当面は必要に応じて緊急対策（風倒木の整理やナラ枯れ等）を行う。 市民利用があるため将来的に森林等の保全を検討する地区。
	現在、谷津田は管理がされているが、樹林はほとんど管理が行われていない状態である。今後は谷津田だけでなく周辺樹林の状態も良好に保つことで、四季の移ろいや自然を感じる憩いの場として利用されることが期待される。 今後の対応として、樹林管理をする NPO 等がないことから、当面は樹林の保全策は行わず、必要に応じて緊急対策のみを実施する。なお、現在比較的市民利用がある地区であり、谷津田環境を健全に維持するために、将来的には森林の保全策を検討・実施する。	
	特性等	・保全協定締結地の水田は大部分が営農しており、放棄水田は少ない。また、JA 千葉みらい中央支店の指導による地元小学校による米づくり体験学習が行われている。 ・周辺には大規模な住宅地（みつわ台、都賀、東寺山、東千葉）があり、この地域に残された数少ない谷津田の一つである。水田沿いには農道が整備されているため、現在は地元住民の散歩や散策に利用されている。 ・周辺林のうち、シラカシ林内の一部では、台風による風倒木の伐採や整理が行われた形跡があるが、その他の場所は森林整備や下草刈りは行われておらず、放置された状態である。 ・イヌシデ林、シラカシ林、タブノキ林内にゴミが投棄されている。 ・竹林内は管理されておらず、倒伏した竹や枯死した竹が放置されている。
樹林保全対策（群落別・環境別）		

①スダジイ群落
・林縁に生育するツルニチニチソウは外来種で繁殖力が旺盛なため、早期に草刈り等を実施して撤去する。
・林内に投棄ゴミがあれば撤去し、台風等による風倒木は危険度や周辺の植生に与える影響等から判断して、整理・撤去する。
②イヌシデ林、シラカシ林、タブノキ林
・林内の投棄ゴミを撤去し、台風等による風倒木は危険度や周辺の植生に与える影響等から判断して、整理・撤去する。
③竹林
・竹が密に繁茂している場所は適度に刈込を行う。枯死した竹は整理、除去する。隣接する森林への拡大防止を徹底する。
④谷津田
・営農していない水田を中心に草刈り等の管理を実施する。
・多様な植生を維持するため、セイトカアワダチソウ等の外来植物は積極的に除去するが、ヨシやガマ等の湿性高茎草本が生育する場所は現状を維持する程度に管理し、過度な草刈り等は行わないよう注意する。

No.1 原の植生分布と管理状況



スダジイ群落の状況。



林縁にツルニチチソウの逸出個体が生育。



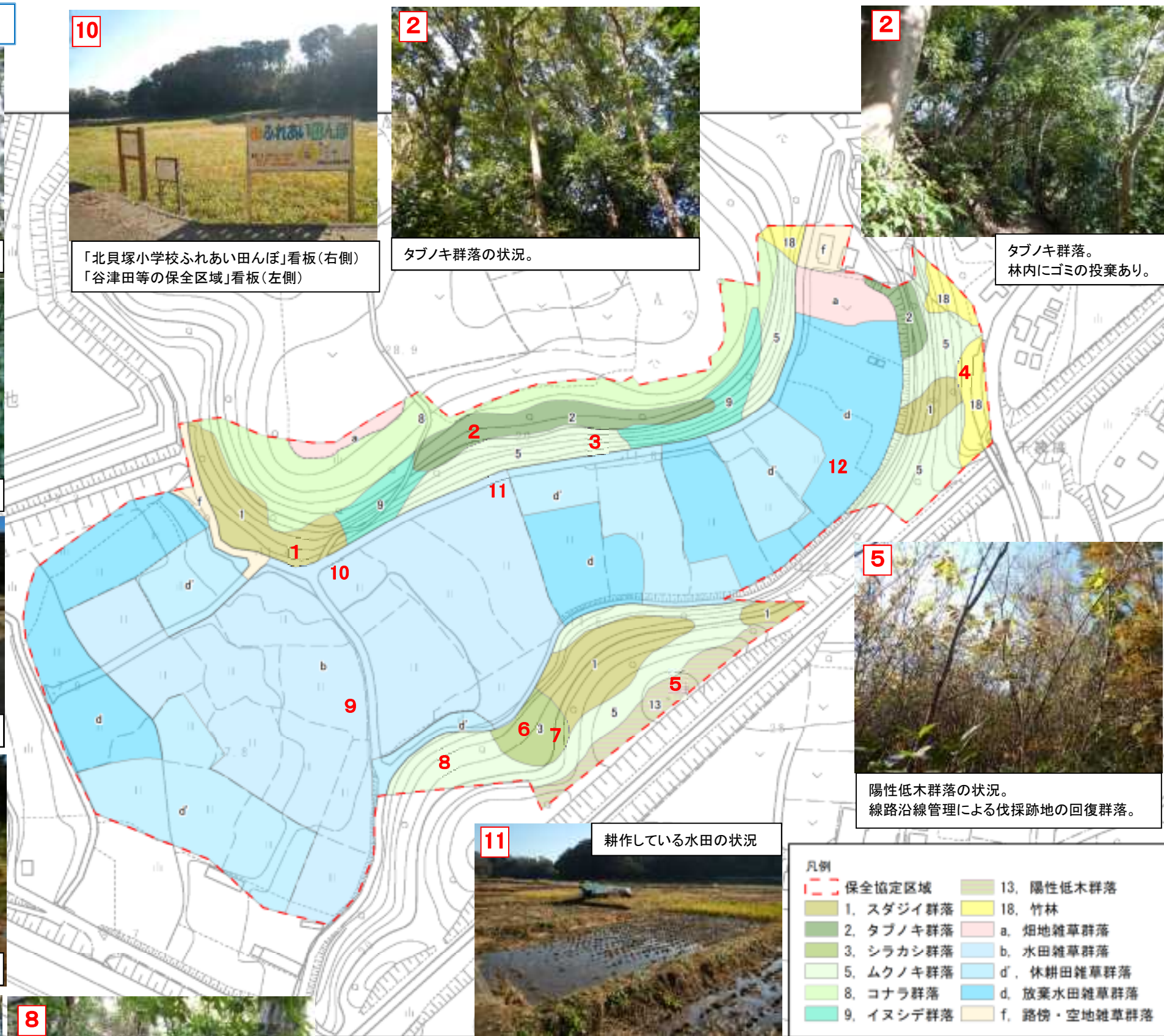
耕作している水田の状況



休耕田の状況



ムクノキ群落の状況。



耕作している水田の状況



シラカシ群落(風倒地)の林内



風倒木の整理状況

凡例

1. スダジイ群落	13. 陽性低木群落
2. タブノキ群落	18. 竹林
3. シラカシ群落	a. 畑地雑草群落
5. ムクノキ群落	b. 水田雑草群落
8. コナラ群落	d'. 休耕田雑草群落
9. イヌシデ群落	d. 放棄水田雑草群落
	f. 路傍・空地雑草群落



タブノキ群落の状況。



タブノキ群落。
林内にゴミの投棄あり。



ムクノキ群落。土壌堆積が厚い。



竹林内の状況。
倒伏した竹が放置されている。



陽性低木群落(優占種はアカメガシワ)。



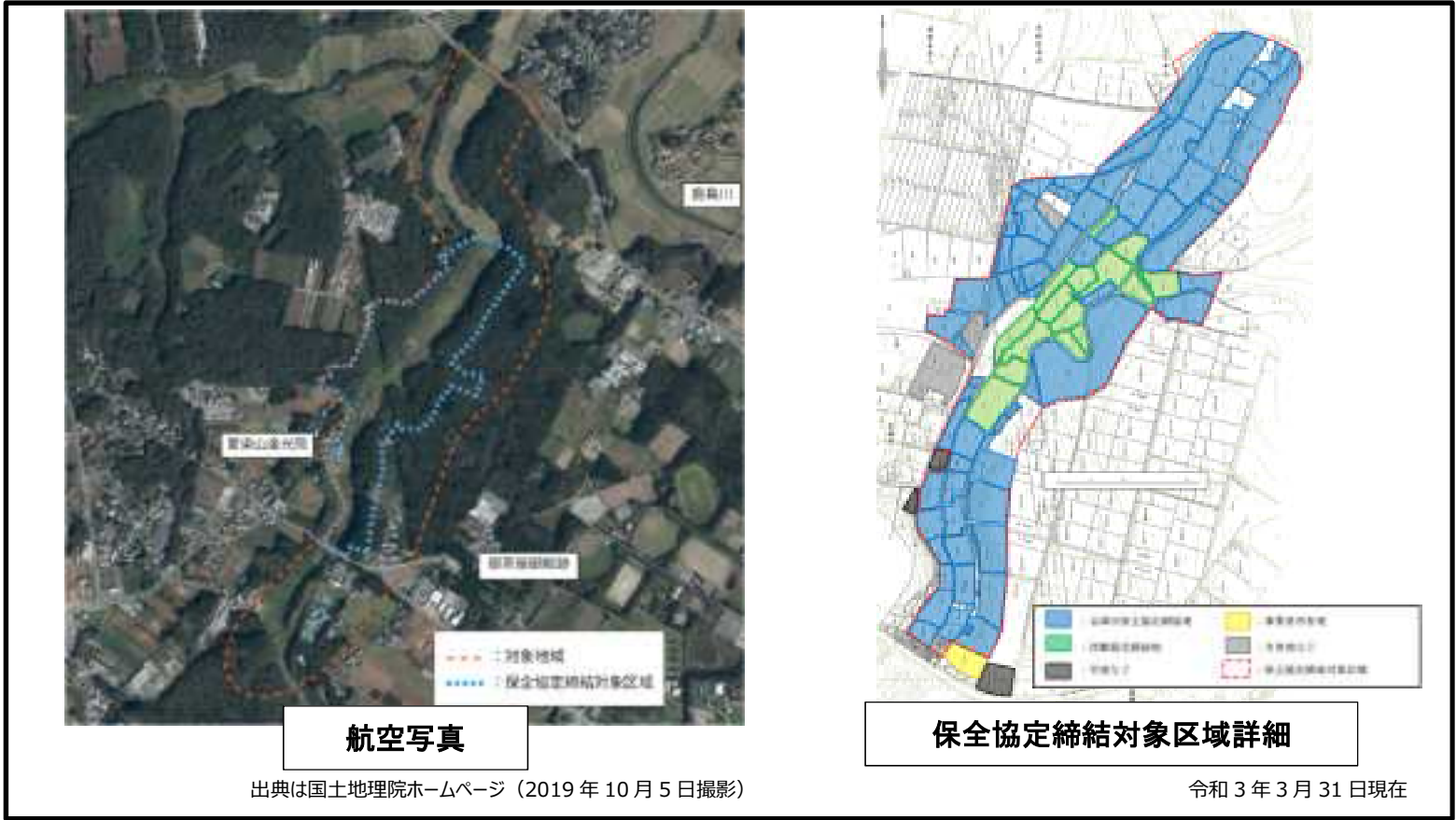
シラカシ群落



風倒木の整理、積み上げの状態。

No. 2	金光院	
主な所在地：	若葉区金親町の一部	集水域面積：269 h a
水系：	鹿島川（鹿島川流域）	対象区域：50.00 h a
谷津田のタイプ：	B、谷津健在圃場未整備型	保全協定締結対象区域：11.52 h a
位置付け：	谷津田等保全地区（優先地区）	谷津田保全協定締結地：10.95 h a

地域森林計画	区域番号	①14 ち、②15 は、15 に、15 ほ		
	千葉市森林整備計画の位置付け	区分	①快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林 ②水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	
		施業の方法	①複層林施業を推進すべき森林（択伐によるものを除く） ②伐期の延長を推進すべき森林	
保全状況	・対象区域の谷津田の中央部付近ではボランティアによる田んぼづくりが実施されている。その上流、下流では休耕田や放棄水田が見られる。 ・一部の休耕田では草の刈取りが実施されているが、管理されていない場所ではヨシやヤナギが繁茂している。 ・樹林の広範囲が下草刈り等の管理がされておらずアズマネザサ等が繁茂している。 ・コナラ林の一部では草刈りや落ち葉掻き、倒木整理等が行われている。 ・スギ・ヒノキ植林内の一部で下草刈が行われている。 ・区域内にある竹林は倒伏した竹の整理が行われていた形跡はあるが、最近では管理されていない様子である。			
自然条件	地形	対象区域は千葉市北東部の台地に位置している。ローム台地に形成された谷津は、谷底部と台地との高低差は少なく、地形も複雑ではない。	水系	対象となる谷津田は南北方向に約 2km 続いており、谷津田から流れ出た湧水は谷津田入口から約 1km 離れた鹿島川に流れ込む。なお、鹿島川は昭和の森を水源とし、印旛沼へ流れ込む全長 31.8km の一級河川である。このうち、金光院谷津田からの水が流れ込むのは、鹿島川の中上流域である若葉区の大井戸町付近である。
	景観	対象区域内には長年放棄された水田が多くあるが、水田として保全されている場所とその周辺にはコナラやクヌギなどが生育する広葉樹林やシラカシなどが生育する常緑広葉樹林があり、いわゆる里山の風景が残っている。		
	動物	過去の調査により、哺乳類 6 種、鳥類 49 種、爬虫類 8 種、両生類 6 種、昆虫類 301 種、魚類 2 種などの生息が確認されている。	植物	過去の調査により、植物は 346 種の生育が確認されている。
社会的条件	歴史的要素	保全協定締結対象区域内には北東側の樹林にかけて「南向方遺跡（包蔵地）」が、東側の樹林にかけて「北寺山北遺跡（包蔵地）」があり、縄文期から平安時代にかけて居住地として利用されていた。また、周辺には徳川家康が鷹狩の際に寄った御茶屋御殿跡や愛染山延命寺金光院がある。	施設	対象区域内には特に施設はない。谷津の上流域にはゴルフ練習や野球グラウンドが整備されている。
	周辺開発	対象区域の西側約 1.2km には千葉都市モノレールの終点である千城台駅があり、その周辺は千城台住宅団地として昭和 40 年代に農地の住宅化が行われた。なお、谷津田の西側地域は都市化が進んでいるが、谷津田は樹林に囲まれており、近郊では特に目立った開発は行われていない。	計画	対象区域は「市街化調整区域」に指定されており、開発行為は原則として制限されている。
活動状況	・平成 25 年度頃より市とボランティアが協力して保全を行っており、令和 2 年 4 月よりボランティア団体（金光院 SATOYAMA 環境保全 Group）が活動協定を締結し、保全活動を行っている。 ・団体は市と協働で谷津田の生き物保全を目的に、田んぼづくり、除草作業、水路整備、ビオトープ等整備、ニホンアカガエル卵塊調査、ヘイケボタル調査、水生生物調査を行う（活動期間は毎月 2～3 日）。			



※優先度は A、B、C の 3 段階。詳細は「別紙 保全の方向性」を参照のこと					
今後の方向性	<table><tr><td>優先度 B ※</td><td>市は当面は必要に応じて緊急対策（風倒木の整理やナラ枯れ等）を行う。 市民利用があるため将来的に森林等の保全を検討する地区。</td></tr><tr><td colspan="2">対象区域は一部でのみ耕作が行われており、放棄水田及び休耕田が多い状態である。最近、市民団体により谷津田の保全活動が開始されており、今後の活動が期待されている。 今後の対応として、現在は谷津田の保全活動を行うボランティアはあるが、樹林管理は行っていないことから、当面は樹林の保全策は行わず、必要に応じて緊急対策のみを実施する。なお、現在比較的市民利用がある地区であり、谷津田環境を健全に維持するために、将来的には森林の保全策を検討・実施する。</td></tr></table>	優先度 B ※	市は当面は必要に応じて緊急対策（風倒木の整理やナラ枯れ等）を行う。 市民利用があるため将来的に森林等の保全を検討する地区。	対象区域は一部でのみ耕作が行われており、放棄水田及び休耕田が多い状態である。最近、市民団体により谷津田の保全活動が開始されており、今後の活動が期待されている。 今後の対応として、現在は谷津田の保全活動を行うボランティアはあるが、樹林管理は行っていないことから、当面は樹林の保全策は行わず、必要に応じて緊急対策のみを実施する。なお、現在比較的市民利用がある地区であり、谷津田環境を健全に維持するために、将来的には森林の保全策を検討・実施する。	
優先度 B ※	市は当面は必要に応じて緊急対策（風倒木の整理やナラ枯れ等）を行う。 市民利用があるため将来的に森林等の保全を検討する地区。				
対象区域は一部でのみ耕作が行われており、放棄水田及び休耕田が多い状態である。最近、市民団体により谷津田の保全活動が開始されており、今後の活動が期待されている。 今後の対応として、現在は谷津田の保全活動を行うボランティアはあるが、樹林管理は行っていないことから、当面は樹林の保全策は行わず、必要に応じて緊急対策のみを実施する。なお、現在比較的市民利用がある地区であり、谷津田環境を健全に維持するために、将来的には森林の保全策を検討・実施する。					
特性等	・谷津田の上流部には部分的に開発等の改変があるが、集水域内の樹林や谷津地形の原形が概ね残っている。 ・湧水を源流とする小水路があり、湿地や湧水を利用した水田がある。 ・ボランティアの調査により、里山に生育・生息する重要種が多く確認されている。 ・周辺には大規模な住宅地（千城台）があり、近くにある他の谷津田（金親、大草）と同様に、徒歩圏内にある谷津田の一つ。水田沿いには農道が整備されているため、現在は地元住民の散歩や散策に利用されている。 ・長期間放棄された水田では、荒廃が進み、草地環境からヤナギ等低木林への遷移が見られる。 ・谷津田周辺の樹林や竹林は一部で草刈り等の管理が実施されているが、大部分は放置された状態である。 ・管理がされていない林内では林床にアズマネザサが繁茂している場所が多い。 ・令和元年の台風 15 号の強風により、スギやシラカシなどに多くの倒木が発生し、放置されているものが多くみられる。				
樹林保全対策（群落別・環境別）	①ケヤキ群落、シラカシ群落、コナラ群落、イヌシデ群落 ・アズマネザサが密生する場所は適度な刈込を行い、多年生草本の生育環境の創出に努める。 ・重要な植物種の生育地になっている場合は、事前に調査を行った上で過度は刈込を行わないよう注意する。 ・令和元年の台風により発生した倒木が放置されている場所は、危険度や周辺の植生に与える影響等から判断して、順番に撤去、移動し、片付け等の整備を行う。 ②ヤナギ低木群落、ヤナギ高木群落 ・放棄水田が遷移してヤナギ低木群落、ヤナギ高木群落になった場所は遷移の拡大を防ぐため、ヤナギの伐採や、周辺への拡大防止のための刈込を行う。 ③竹林、アズマネザサ群落 ・竹が密に繁茂している場所は適度に刈込を行う。枯死した竹は整理、除去する。隣接する森林への拡大防止を徹底する。 ④谷津田 ・営農していない水田を中心に草刈り等の管理を実施する。 ・多様な植生を維持するため、セイタカアワダチソウ等の外来植物は積極的に除去するが、ヨシやガマ等の湿性高茎草本が生育する場所は現状を維持する程度に管理し、過度な草刈り等は行わないよう注意する。				

No.2 金光院の
植生分布と管理状況



3 ケヤキ群落の林内。
林床にアズマネザサが繁茂。特に管理なし。



2 アズマネザサ群落。特に管理なし。



1 ケヤキ群落の林内。
マダケが侵入し、低木層に常緑植物が繁茂。



11 スギ・ヒノキ植林の林内。風倒木が放置されて
いる。特に管理なし。



4 イヌシデ群落。特に管理なし。
アズマネザサがやや疎生する。



12 コナラ群落。部分的にアズマネザサが密生し
ている場所あり。特に管理なし。



13 水田の状況



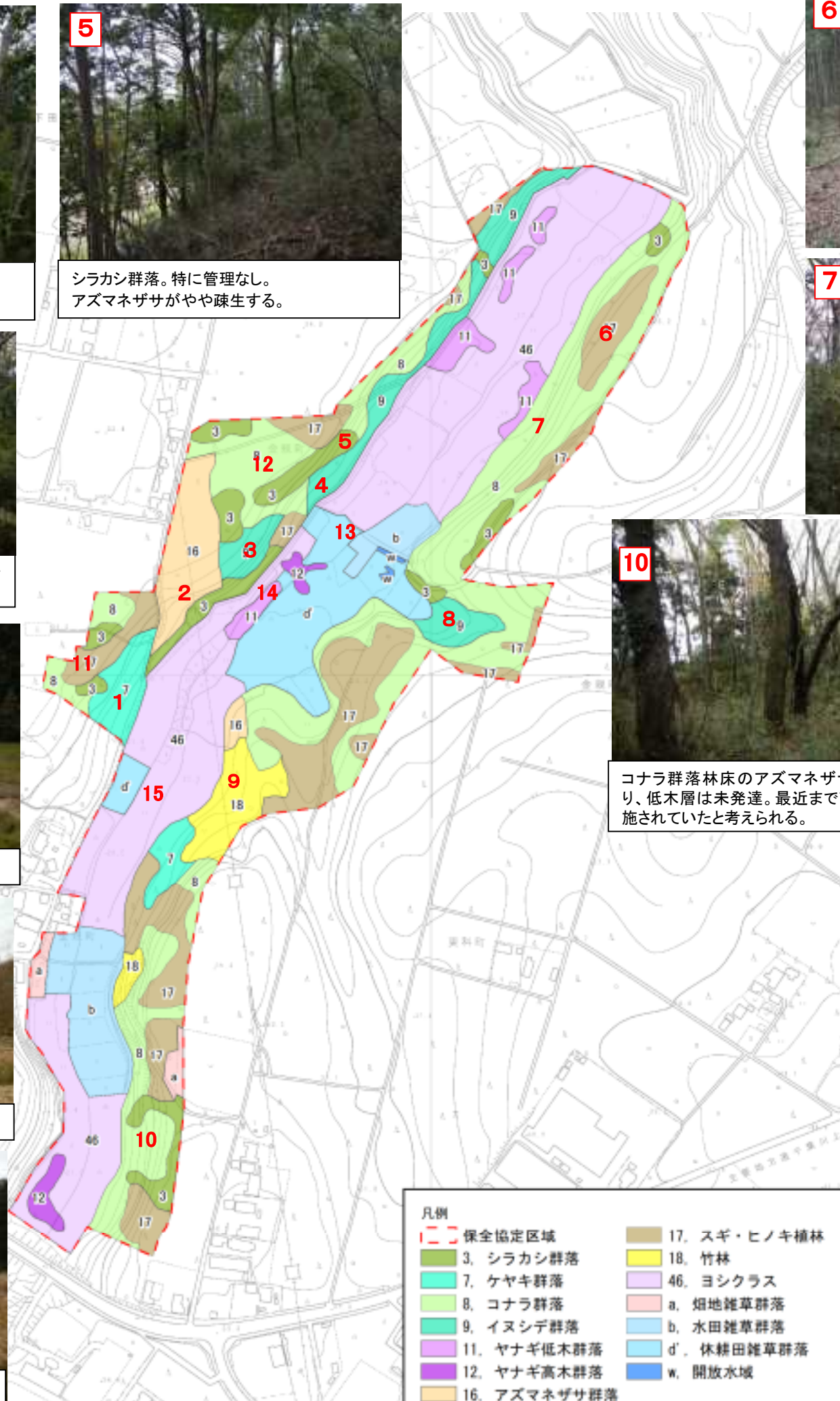
14 放棄水田が遷移してヤナギ低木群落に移行



15 放棄水田の状況(ヨシ群落)



5 シラカシ群落。特に管理なし。
アズマネザサがやや疎生する。



6 スギ・ヒノキ植林。
林床のアズマネザ
サは疎ら。低木層
は未発達。下草刈
りが実施されてい
る(森林施業あ
り)。



7 コナラ群落。
シラカシの優占
度が高く、林床
にアズマネザ
サが繁茂してい
る。



10 コナラ群落林床のアズマネザサは疎らであ
り、低木層は未発達。最近まで下草刈りが実
施されていたと考えられる。



8 ケヤキ群落の林内。
一部下草刈りが実施されている。



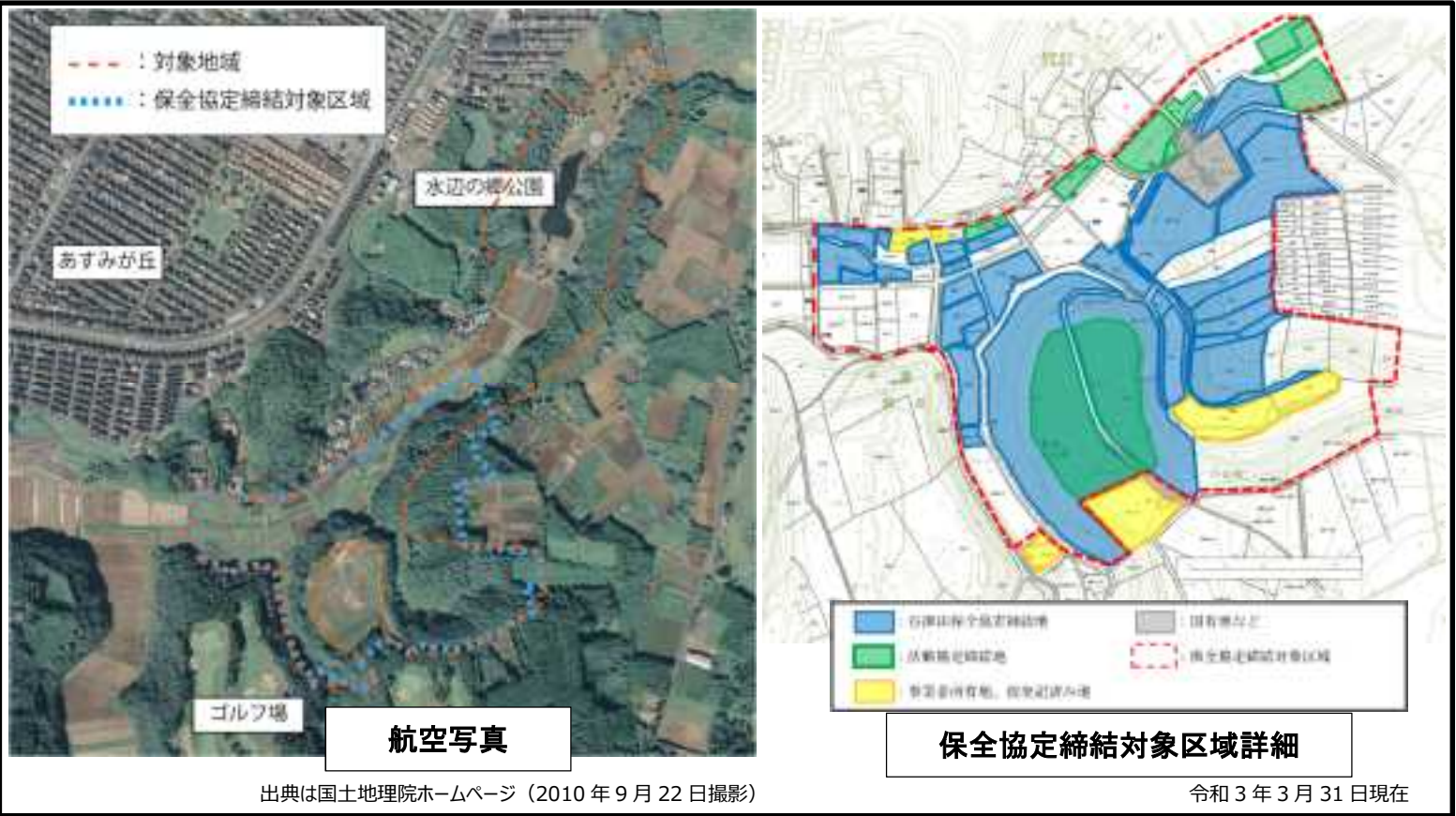
9 竹林内には風倒した稈が散在している。



9 古い稈の積上げがみられるが、最近
は管理が行われていない様子である。

No. 3	昭和の森（小山地区含む）	
主な所在地：	緑区小山町の一部	集水域面積：215 h a
水系：	村田川（村田川上流域）	対象区域：35.00 h a
谷津田のタイプ：	上流部公園化、都市近郊・農村部圃場整備型	保全協定締結対象区域：9.37 h a
位置付け：	谷津田等保全地区（優先地区）	谷津田保全協定締結地：6.90 h a

地域森林計画	区域番号	62 に、62 ほ		
	千葉市森林整備計画の位置付け	区分	快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	
		施業の方法	複層林施業を推進すべき森林（択伐によるものを除く）	
保全状況	・村田川沿いの水田では耕作が継続しており、周辺の草刈り等の整備が行われている。 ・区域の南側と南東側に位置する 2 つの谷津では、下流域でのみ耕作が行われており、中流から上流域は耕作放棄されてから管理されておらず、ヨシ等の植物が繁茂している。谷津田周辺の既存樹林は管理されておらず、特に南東側の谷津田は周辺林の倒木がひどく、荒廃している。 ・区域内の樹林のうち、スギ・ヒノキ植林の一部で、下草刈りが行われている。 ・竹林内では特に管理は行われておらず、倒伏した竹が放置されている。 ・コナラの一部にナラ枯れの原因となるカシノナガキクイムシ侵入痕有り。			
自然条件	地形	対象区域は千葉市南部の丘陵地に位置している。地形は小起伏丘陵地に分類されるが、接続する谷津田の規模が比較的小さいため、谷底部と丘陵地との高低差は少なく、なだらかである。	水系	谷津田からの湧水は区域内を流れる村田川に流れ込む。なお、村田川は緑区板倉町を起点とし、東京湾へ流れ込む全長 17.5km の二級河川である。このうち、小山地区谷津田からの水が流れ込むのは、村田川の上流域である緑区小山町付近である。
	景観	水田耕作が行われている谷津田とその周辺にはコナラやクスギなどが生育する広葉樹林やシラカシなどが生育する常緑広葉樹林があり、いわゆる里山の風景が残っている。		
	動物	過去の調査により、鳥類 67 種、爬虫類 3 種、両生類 6 種、昆虫類 49 種などの生息が確認されている。	植物	過去の調査により、植物は 390 種の生育が確認されている。
社会的条件	歴史的要素	保全協定締結対象区域の東側にある樹林から台地上の畑にかけて「西鹿子遺跡（包蔵地）」があり縄文土器や土師器が出土している。 保全協定締結対象区域の西側にある樹林地では以前産廃施設建設計画があったが、地元住民等の反対により平成 18 年に業者が撤退した。	施設	小山地区の上流部にあった谷津田は土地区画整理事業時に「あすみが丘水辺の郷公園」として調整池などが整備された。
	周辺開発	対象区域の北西側には 1985 年頃から土地区画整理により造成された住宅地（あすみが丘）があり、南側には約 30 年前に谷津田や樹林地に造られた東急セブンハンドレットクラブゴルフ場がある。	計画	対象区域は「市街化調整区域」に指定されており、開発行為は原則として制限されている。
活動状況	・対象区域の谷津田では NPO 法人ちば環境情報センターにより、「小山 谷津田プレーランドプロジェクト（小山 YPP）」が実施されており、2005 年から休耕田を復田し、田んぼづくりを行っている。また、プロジェクトの一環で、千葉市立大椎小学校とあすみが丘小学校の生徒に米作り体験授業を実施している。 ・対象区域内的の樹林地内にある造成地（以前産業廃棄物最終処分場の建設計画があったがその後中止）では 2008 年から NPO 法人緑の環・協議会が緑地回復のための植樹や、雑草除去等を実施している。 ・2018 年頃から NPO 法人土気 NGO が放棄水田を耕し、田んぼづくり進めている。			



※優先度は A、B、C の 3 段階。詳細は「別紙 保全の方向性」を参照のこと		
今後の方向性	優先度 B※	市は当面は必要に応じて緊急対策（風倒木の整理やナラ枯れ等）を行う。 市民利用があるため将来的に森林等の保全を検討する地区。
	現在、谷津田は管理がされているが、樹林はほとんど管理が行われていない状態である。 今後の対応として、現在は谷津田の保全活動を行う NPO 団体はあるが、樹林管理をする NPO 等がないことから、当面は樹林の保全策は行わず、必要に応じて緊急対策のみを実施する。特にコナラ林内ではナラ枯れの発生が確認されており、被害状況の把握と、周辺への被害拡大防止対策が必要である。また、現在、多くの市民利用がある地区であり、谷津田環境を健全に維持するために、将来的には森林の保全策を検討・実施する。	
特性	・集水域内には上流部に開発等の改変が見られるが、対象谷津と周辺樹林は昔から環境が概ね残っている。 ・湧水を源流とする小水路があり、湿地や湧水を利用した水田がある。 ・NPO 等、市民の手により谷津田の保全活動や維持管理、周辺林の緑化や自然観察会等が行われている。 ・令和元年の台風 15 号の強風により、スギやシラカンにより多くの倒木が発生した。撤去が進んだ場所もあるが、放置されているものも多くみられる。 ・区域内のコナラにカシノナガキクイムシを起因とするナラ枯れの発生が見られる。 ・村田川に面した谷津田は水田利用されているが、南側 2 つの谷津の水田は大部分が耕作放棄されており、ヨシが繁茂している。 ・谷津田周辺のスギ・ヒノキ植林の一部で草刈り等の管理が実施されているが、その他の樹林は放置された状態である。 ・管理がされていない林内では林床にアズマネザサが繁茂している場所が多い。	
樹林保全対策（群落別・環境別）	①コナラ群落、イヌシデ群落、エノキ群落 ・アズマネザサが密生する場所は適度な刈込を行い、多年生草本の生育環境の創出に努める。 ・一部ナラ枯れの被害木が見られるため、被害木を速やかに伐倒・焼却処理する。また、被害の拡大を防ぐため、被害の全容を初期段階で迅速に判断し、防除を行うことが重要である。 ②スダジイ群落、アカガシ群落、スギ・ヒノキ植林 ・スダジイ群落とシラカン群落は比較的自然度の高い安定的な植生であり、重要な植物種の生育地になっている場所は無用な立ち入りを防止して、現状を維持する。また、スギ・ヒノキ植林内にも重要な植物種の生育地があるため、留意して管理を行う。 ・アズマネザサが密生する場所は適度な刈込を行い、多年生草本の生育環境の創出に努める。 ③竹林、アズマネザサ群落 ・竹が密に繁茂している場所は適度に刈込を行う。枯死した竹は整理、除去する。隣接する森林への拡大防止を徹底する。 ④谷津田 ・営農していない水田を中心に草刈り等の管理を実施する。 ・多様な植生を維持するため、セイタカアワダチソウ等の外来植物は積極的に除去するが、ヨシやガマ等の湿性高茎草本が生育する場所は現状を維持する程度に管理し、過度な草刈り等は行わないよう注意する。	

No.3 昭和の森(小山地区含む) の植生分布と管理状況



スダジイ群落。神社周辺の社寺林。



林床には枯死したアズマネザサが目立つ。



アカガシ群落。特に管理なし。



エノキ群落。林内にアオキが繁茂。管理なし。



スギ植林林内。下草刈りあり。低木層が未発達であり、草本層の群落高さが低い。



スギ・ヒノキ植林。スギの倒木は放置されている。



亜高木層、高木層にシラカシ、スダジイ等の常緑植物が繁茂。特に管理なし。



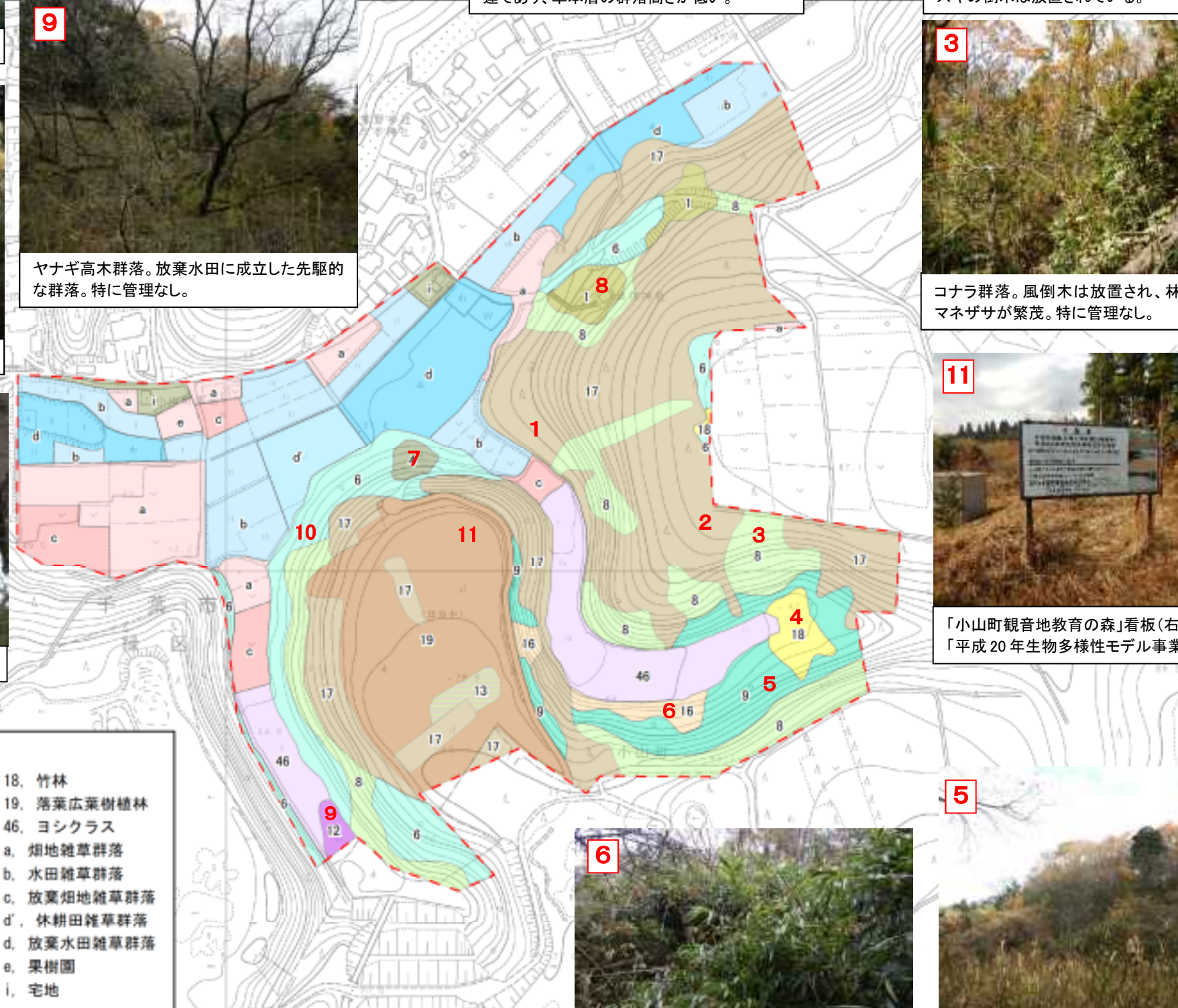
ヤナギ高木群落。放棄水田に成立した先駆的な群落。特に管理なし。



コナラ群落。風倒木は放置され、林床にアズマネザサが繁茂。特に管理なし。



コナラの一部にナラ枯れの原因となるカシノナガキクイムシ穿入痕有り。フラスの堆積あり。



「小山町観音地教育の森」看板(右側)
「平成20年生物多様性モデル事業」看板(左)



竹林内の状況。イヌシデ群落にマダケが侵入したと思われる、倒伏した稈は放置。



イヌシデ群落(上部コナラ群落)の状況



林床にアズマネザサが繁茂。特に管理なし。



アズマネザサ群落。特に管理なし。
地すべり後だと思われる。

- 凡例
- 保全協定区域
 - 1, スダジイ群落
 - 4, アカガシ群落
 - 6, エノキ群落
 - 8, コナラ群落
 - 9, イヌシデ群落
 - 12, ヤナギ高木群落
 - 13, 陽性低木群落
 - 16, アズマネザサ群落
 - 17, スギ・ヒノキ植林
 - 18, 竹林
 - 19, 落葉広葉樹植林
 - 46, ヨシクラス
 - a, 畑地雑草群落
 - b, 水田雑草群落
 - c, 放棄畑地雑草群落
 - d, 休耕田雑草群落
 - d', 放棄水田雑草群落
 - e, 果樹園
 - i, 宅地

No.4 大草谷津田いきものの里 植生分布と管理状況



スギ植林の風倒跡の回復群落。
園路付近の風倒木は整理されている。



シラカシの優占度が高く、林床にアズマネザサが繁茂、コナラの一部が風倒により折損。



急傾斜地に分布しており、倒木は放置。



風倒により一部折損、倒壊。
隣接するスギ植林でも風倒木が放置。



一部、風倒木の整理・積上げが実施。



林床にアズマネザサが繁茂。特に管理なし。



下草刈の頻度が高すぎて、低木層が発達していない場所



ハンノキ林の
林床に蛇行水路が設置され、草刈り等の管理が行われている。



低木層に常緑植物が繁茂。草刈り等の管理は行われていない。



低木層が2mと低く、アズマネザサが疎生。一部、風倒木の整理・積上げ等の管理を実施。



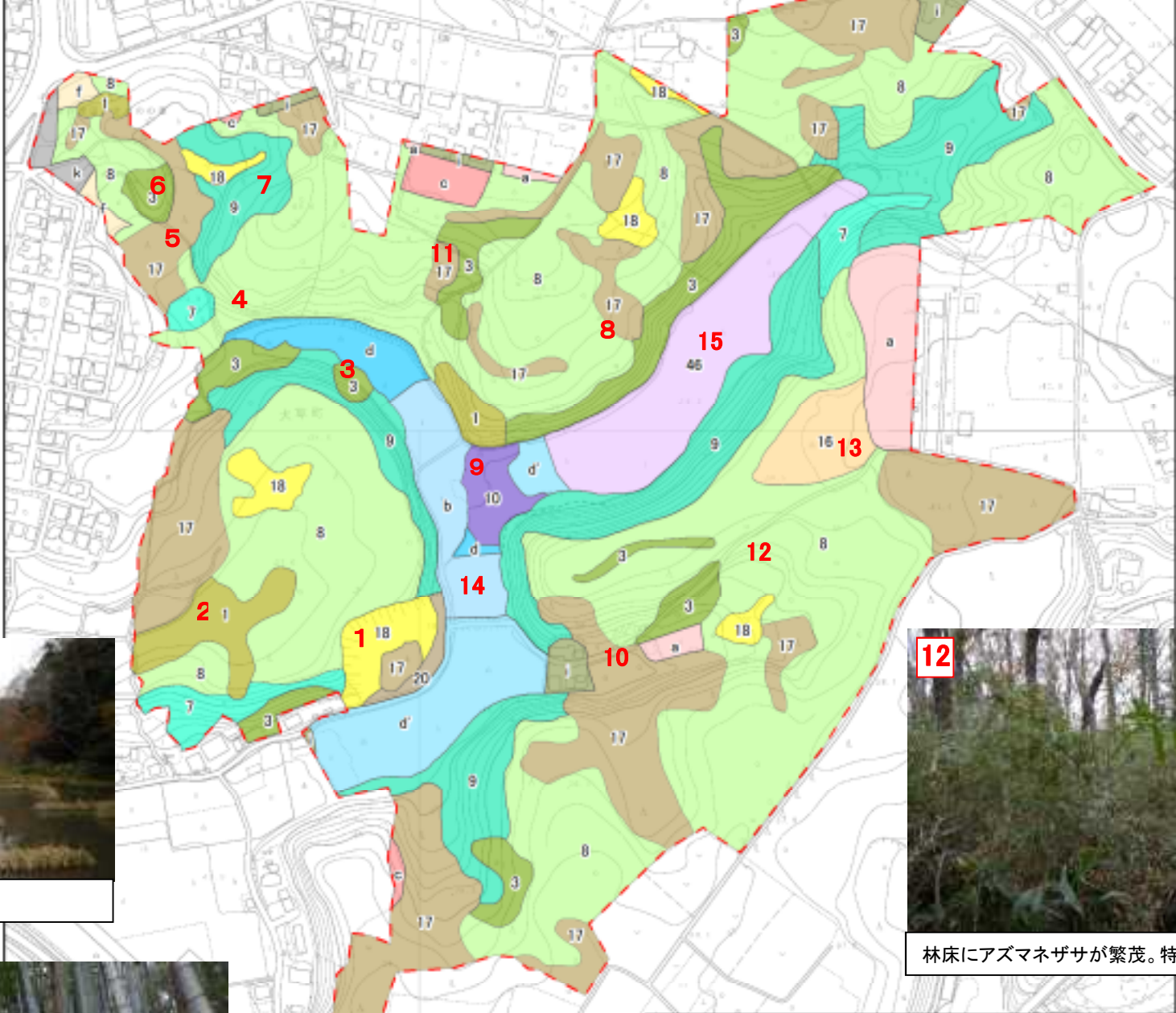
林床にアズマネザサが繁茂。特に管理なし。



コナラの一部にナラ枯れの原因となるカシノナガキクイムシ侵入痕有り。フラスの堆積あり。



アズマネザサが繁茂しており、耕作放棄された畑地跡と思われる。



凡例	
1. スダジイ群落	20. クスギ植林
3. シラカシ群落	46. ヨシクラス
7. ケヤキ群落	a. 畑地雑草群落
8. コナラ群落	b. 水田雑草群落
9. イヌシデ群落	c. 放棄畑地雑草群落
10. ハンノキ群落	d'. 休耕田雑草群落
16. アズマネザサ群落	d. 放棄水田雑草群落
17. スギ・ヒノキ植林	f. 路傍・空地雑草群落
18. 竹林	i. 宅地
	k. 市街地



ヨシクラスの状況



モウソウチクが優先する。林床には枯死したアズマネザサ目立つ。

No. 5	下大和田西		
主な所在地： 緑区下大和田町の一部		集水域面積：	74 h a
水系： 鹿島川（鹿島川流域）		対象区域：	12.00 h a
谷津田のタイプ：	B、谷津田健在圃場未整備型	保全協定締結対象区域：	8.97 h a
位置付け：	谷津田等保全地区（優先地区）	谷津田保全協定締結地：	5.62 h a

地域森林計画	区域番号	42 ㊦、43 い、43 ろ、43 は	
	千葉県森林整備計画の位置付け	区分	水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林
		施業の方法	伐期の延長を推進すべき森林
保全状況	・谷津田の下流部では水田耕作が行われており、田んぼ周辺の草刈りも丁寧に行われている。 ・谷津田の中上流域の谷津田は耕作放棄されてから管理されておらず、ヨシやセイタカアワダチソウ等の植物が繁茂している。 ・区域内の樹林のうち、コナラ林、イヌシデ林、スギ・ヒノキ植林、竹林では、下草刈りや落ち葉掻き、倒伏した竹の整理等が行われている場所がある。		
自然条件	地形	対象区域は千葉県南東部の丘陵地に位置している。地形は小起伏丘陵地に分類されるが、谷津田下流部に位置するため、谷底部と丘陵地との高低差は少なく、なだらかである。	水系
	景観	対象区域内には長年放棄された水田が多くあり、ヨシやアズマネザサが繁茂している場所が見られる。そのため、営農している谷津入口付近以外は荒廃した農耕地の風景となっている。	
	動物	過去の調査により、哺乳類 2 種、両生類 4 種、昆虫類 14 種などの生息が確認されている。	植物
社会的条件	歴史的要素	保全協定締結対象区域内には南東側の樹林にかけて「鷹垂山南遺跡（包蔵地）」が、南側の樹林にかけて「林之台第 2 遺跡（包蔵地）」があり、縄文期から平安時代にかけての土器や、土師器が出土している。	施設
	周辺開発	対象区域の上流域となる南西側から約 200m には約 35 年前に谷津と周辺の樹林を整備して造られたゴルフ場（平川カントリークラブ）がある。 なお、谷津田の周辺にある樹林や田畑は特に変化がなく、近郊では特に目立った開発は行われていない。	計画
活動状況	・令和 3 年 3 月現在活動中の団体はない。 ・周辺に人家が少なく、谷津入り口から谷津奥へつながる農道が整備されていないことから、散歩や自然観察等の利用はほとんどないと考えられる。		



今後の方向性	優先度 C※	今後、放棄水田や周辺林の荒廃を防ぐ対策を検討する地区。 市は当面は必要に応じて緊急対策（風倒木の整理やナラ枯れ等）を行う。
	現在の状況から見て市民の利用はほとんどないと考えられる。周辺の樹林は部分的に管理が行われている。また放棄水田が長期間放置されたため、植生の遷移が進んでいる。 今後の対応として、NPO 等の活動がないことから、当面は樹林の保全策は行わず、緊急対策のみを実施する。また、現在は市民利用がほとんどないが、谷津田の荒廃がかなり進んでいることから、将来的に谷津田と周辺樹林の環境を健全に保ち、市民利用が可能となるための施策を市が中心となって検討・実施する地区とする。	
特性等	・谷津田の下流部付近以外は耕作放棄されており、中流域から上流域にかけてはヨシ等への遷移が進んでいる。 ・周辺林は開発等の影響がなく、連続的に残存している。 ・NPO やボランティア等による谷津田の保全活動や維持管理は行われていない。 ・周辺に人家は少なく、農道の整備状況から見て市民の利用（散歩、散策、自然観察）はほとんどないと考えられる。 ・コナラ林、イヌシデ林、スギ・ヒノキ植林、竹林は、間伐、下草刈り、落葉掻き、倒伏した竹の整理等が実施されている場所が見られる。 ・管理されていないコナラ林やタブノキ林内ではアズマネザサが繁茂している場所が見られる。	
樹林保全対策（群落別・環境別）	①コナラ群落、イヌシデ群落 ・アズマネザサが密生する場所は適度な刈込を行い、多年生草本の生育環境の創出に努める。 ②スダジイ群落、シラカシ群落、スギ・ヒノキ植林 ・スダジイ群落とシラカシ群落は比較的自然度の高い安定的な植生であり、重要な植物種の生育地になっている場所は無用な立ち入りを防止して、現状を維持する。また、スギ・ヒノキ植林内にも重要な植物種の生育地があるため、留意して管理を行う。 ・アズマネザサが密生する場所は適度な刈込を行い、多年生草本の生育環境の創出に努める。 ③竹林、アズマネザサ群落 竹が密に繁茂している場所は適度に刈込を行う。枯死した竹は整理、除去する。隣接する森林への拡大防止を徹底する。 ④谷津田 ・放棄水田を中心に草刈り等の管理を実施する。 ・現在、中流域から上流域にかけては長期間耕作が行われていないため、農道等通行できる道がない状態である。今後の管理や市民の利用の観点から、人が移動できる程度の道を整備する。	

No.5 下和田西の
植生分布と管理状況



アズマネザサ群落。
高圧線下の管理伐採跡地。特に管理なし。



アズマネザサが繁茂する。



エノキ群落。スギ植林の伐採跡からの回復群
落と思われる。特に管理なし。



コナラ群落。コナラからシラカシへ遷移途中。
特に管理は行われていない。



コナラ群落(古い萌芽林)。
アズマネザサが繁茂する。



コナラ群落の林床。



イヌシデ群落。コナラが混生している。
伐採されたコナラの整理、積上げがあり、下草
刈りや落ち葉掻きが行われている



谷津田中流域



タブノキ群落。
境界木等の植
栽起源の可能
性、林床にアズ
マネザサが繁
茂している。特
に管理なし。



コナラ群落。
多年生草本
が多く生育。
下草刈りや
落ち葉掻き
等が実施さ
れている。



谷津田下流域



スギ植林。
管理の行わ
れている部分
は低木層が
未発達で、草
本層の階層
高が低い。



竹林は管理
が行われて
いる。
林内、林床に
生育する植
物は少ない。



シラカシ群落
の林内。
古い萌芽林。
特に管理は
行われてい
ない。



ヒノキ植林。
施業管理が
行われてい
る。



低木層が未発達で、草本層の階層高が低い。



凡例	
保全協定区域	18. 竹林
1. スダジイ群落	19. 落葉広葉樹植林
2. タブノキ群落	46. ヨシクラス
3. シラカシ群落	b. 水田雑草群落
6. エノキ群落	d. 放棄水田雑草群落
8. コナラ群落	e. 果樹園
9. イヌシデ群落	f. 路傍・空地雑草群落
16. アズマネザサ群落	i. 宅地
17. スギ・ヒノキ植林	m. 造成地

No. 6	谷当	
主な所在地：	若葉区谷当町の一部	集水域面積：33 h a
水系：	鹿島川（鹿島川流域）	対象区域：15.00 h a
谷津田のタイプ：	C、谷津健在圃場整備型	保全協定締結対象区域：7.63 h a
位置付け：	谷津田等保全地区（優先地区）	谷津田保全協定締結地：6.10 h a

地域森林計画	区域番号		10 ほ、10 へ		
	千葉県森林整備計画の位置付け	区分	水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林		
		施業の方法	伐期の延長を推進すべき森林		
保全状況	・谷津田の下流から中流にかけて水田では耕作が継続しているが、部分的に休耕田や放棄水田がある。 ・上流部の放棄水田は管理が行われておらず、アズマネザサやヨシが繁茂している場所がある。 ・NPO による水田づくり、斜面林管理が行われており、コナラ林やイヌシデ林の一部では草刈りや落ち葉掻き、植樹、倒木整理等が実施されている。 ・イヌシデ林内の一画ではスダジイ、アカガシ、シラカシの幼木個体が保全育成されている。 ・竹林内では倒伏した竹が整理、撤去されている。				
自然条件	地形	対象区域は千葉県北東部の台地に位置している。ローム台地に形成された谷津は、谷底部と台地との高低差は少なく、地形も複雑ではない。		水系	谷津田からの湧水は約 500m離れた鹿島川に流れ込む。なお、鹿島川は昭和の森を水源とし、印旛沼へ流れ込む全長 31.8km の一級河川である。このうち谷当谷津田からの水が流れ込むのは、鹿島川の中上流域である若葉区の谷当町付近である。
	景観	湧き水を水源とした田んぼとその周辺にはコナラやクヌギなどが生育する広葉樹林やシラカシなどが生育する常緑広葉樹林があり、いわゆる里山の風景が残っている。			
	動物	過去の調査により、哺乳類 8 種、鳥類 15 種、爬虫類 1 種、両生類 5 種、昆虫類 31 種等の生息が確認されている。		植物	過去の調査により、植物は 156 種の生育が確認されている。
社会的条件	歴史的要素	保全協定締結対象区域内には埋蔵文化財の包蔵地はないが、隣接する樹林地や畑地では縄文や平安時代の土器や土師器が出土している。また堂谷津池の近くには真言宗真照院の跡地があるが、現在は堂跡と井戸跡が残るのみである。		施設	対象区域内には特に施設はない。 周辺には観光農園「谷当工房」があり自然体験・収穫体験・自然食づくりを行っている。また、区域の南東側樹林に隣接して乗馬クラブがあり、外乗コースとして敷地外で自然を楽しむロングコースプランの設定がある。
	周辺開発	対象区域の南側に隣接して約 40 年前よりダートトライアル競技会場が、南東側には事業者所有地（重機車両置き場）、西側には太陽光パネルが設置されている。また、南側近郊にあった下田最終処分場は 1997 年に埋立てが完了し、跡地は 2008 年より市民ゴルフ場として利用されている。		計画	対象区域は「市街化調整区域」に指定されており、開発行為は原則として制限されている。
活動状況	・2012 年に設立された NPO 法人バランス 21 が、米づくり講座（米作りと自然体験）、里山林整備、ビオトープ（湧水を利用した湿地のビオトープ整備）、自然観察会を実施している。 ・自然観察では定期的な調査（植物、動物）を実施し、その結果を HP に定期活動報告として掲載している。また、2018 年度から環境省の「モニタリングサイト 1000 里山調査」の調査地区に登録し、毎月定期的な観察を実施し、結果報告を行っている。 ・NPO 活動は多彩かつ活発であり、その活動に対して 2019 年には千葉県から「千葉県都市文化賞 景観まちづくり部門優秀賞」を、2020 年には印旛沼流域水循環健全化会議から「第 9 回印旛沼・流域大賞」を受賞している。				



※優先度は A、B、C の 3 段階。詳細は「別紙 保全の方向性」を参照のこと

今後の方向性	優先度 A※	市とボランティア等が協力し、優先的に森林部分の保全を実施していく地区
	NPO が積極的な活動を行っており、谷津田整備だけでなく、山林整備も実施している。また、散歩、散策の場所として市民が利用している。 今後の対応として、現在樹林管理をする NPO があることから、優先的に市は NPO と協力し、樹林の保全策を検討・実施する。また、市民利用の実績がある地区のため、谷津田の価値を高め、環境を維持するための施策も合わせて検討・実施する。	
特性等	・集水域内は上流部等開発等の改変が見られるが、対象谷津と周辺樹林は昔からの環境が概ね残っている。 ・湧水を源流とする小水路があり、湿地や湧水を利用した水田がある。 ・NPO により谷津田の保全活動や維持管理、周辺林の緑化や自然観察会等が行われている。 ・令和元年の台風 15 号の強風により、スギやシラカシにより多くの倒木が発生した。撤去が進んだ場所もあるが、放置されているものも多くみられる。 ・コナラ林、イヌシデ林、スギ植林、竹林では下草刈りや落ち葉掻き、倒伏した竹の整理等が実施されている場所がある。また、イヌシデ林内の一部ではスダジイ、アカガシ、シラカシの幼個体を保全し育成している。 ・管理されていない林内では林床にアズマネザサが繁茂している場所が多い。	
樹林保全対策（群落別・環境別）	①コナラ群落、イヌシデ群落 ・アズマネザサが密生する場所は適度な刈込を行い、多年生草本の生育環境の創出に努める。また、コナラ群落の面積が比較的大きいので、ナラ枯れを見つけた場合は被害の全容を初期段階で迅速に判断し、防除を行う。 ②シラカシ群落、スギ・ヒノキ植林 ・シラカシ群落は比較的自然度の高い安定的な植生であり、重要な植物種の生育地になっている場所は無用な立ち入りを防止して、現状を維持する。また、スギ・ヒノキ植林内にも重要な植物種の生育地があるため、留意して管理を行う。 ・アズマネザサが密生する場所は適度な刈込を行い、多年生草本の生育環境の創出に努める。 ・令和元年の台風により発生した倒木が放置されている場所は、危険度や周辺の植生に与える影響等から判断して、順番に撤去、移動し、片付け等の整備を行う。 ③竹林、アズマネザサ群落 ・竹が密に繁茂している場所は適度に刈込を行う。枯死した竹は整理、除去する。隣接する森林への拡大防止を徹底する。 ④谷津田 ・放棄水田を中心に草刈り等の管理を実施する。多様な植生を維持するため、ヨシやガマ等の湿性高茎草本等が生育する場所は現状を維持する程度に管理し、過度な草刈り等は行わないよう注意する。	

No.6 谷当の 植生分布と管理状況



ヒノキ植林内。



風倒木が放置されている。特に管理なし。



イヌシデ群落。スダジイ、アカガシ、シラカシ幼
個体の保全地。下草刈り等の管理を実施。



コナラ群落内。
風倒木の整理・積み上げ。



コナラ幼個体保全地。下草刈り、落ち葉掻き、
植樹等の管理が実施されている。



スギ・ヒノキ植林内。
風倒木の整理が一部実施されている。



谷津上流部



林床は部分的に草刈取りが実施されている。



谷津中流部



コナラ群落。
風倒木が放
置されてい
る。



コナラ群落。
アズマネザサ
が繁茂する。
草刈り等の管
理は行われて
いない。



シラカシ群落。
アズマネザサ
が繁茂する。
草刈り等の管
理は行われて
いない。



谷津下流部。
活動団体によ
り米作りが行
われている。



幼個体の保全状況。

- 凡例
- 保全協定区域
 - 3. シラカシ群落
 - 8. コナラ群落
 - 9. イヌシデ群落
 - 16. アズマネザサ群落
 - 17. スギ・ヒノキ植林
 - 18. 竹林
 - a. 畑地雑草群落
 - b. 水田雑草群落
 - c. 放棄畑地雑草群落
 - d'. 休耕田雑草群落
 - d. 放棄水田雑草群落
 - f. 路傍・空地雑草群落
 - m. 造成地
 - w. 開放水域



竹林は管理されており、倒伏した竹などは見
られない。林床に生育する植物は少ない。



コナラ群落。
風倒木が放
置されてい
る。特に管理
なし。



シラカシ群落。コナラ林からシラカシ林に遷移
途中。特に管理なし。

No. 7	下大和田（猿橋）	
主な所在地：	緑区下大和田町の一部	集水域面積：431 h a
水系：	鹿島川（鹿島川流域）	対象区域：53.00 h a
谷津田のタイプ：	B、谷津健在圃場未整備型	保全協定締結対象区域：3.71 h a
位置付け：	谷津田等保全地区（優先地区）	谷津田保全協定締結地：2.81 h a

地域森林計画	区域番号	39 に、41 い		
	千葉県森林整備計画の位置付け	区分	水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	
		施業の方法	伐期の延長を推進すべき森林	
保全状況	・谷津田の一部で NPO による田んぼづくりが行われている。また、地元住民のイノシシ対策として上流に位置する放棄水田内の草刈りが実施されている場所がある。下流部に位置する放棄水田は管理が行われておらずヨシやアズマネザサが繁茂している場所がある。 ・コナラ林の一部では下草刈りや落ち葉掻き、倒木整理等が行われている。 ・スギ・ヒノキ植林内の一部で風倒木の伐採や整理が行われている。 ・区域内にあるアズマネザサ群落は管理が行われておらず、かなり繁茂した状況となっている。			
自然条件	地形	対象区域は千葉県南東部の丘陵地に位置している。地形は小起伏丘陵地に分類されるが、谷津田下流部に位置するため、谷底部と丘陵地との高低差は少なく、なだらかである。	水系	谷津から流れ出した水は約 100m離れた鹿島川に流れ込む。なお、鹿島川は昭和の森を水源とし印旛沼へ流れ込む全長 31.8kmの一級河川である。このうち、下大和田（猿橋）谷津からの水が流れ込むのは、鹿島川の上流域である緑区の下大和田町付近である。
	景観	対象区域内には長年放棄された水田が多くあり、ススキやヤナギ等が繁茂して管理されていない場所が見られるため、現在残っている水田以外は荒廃した農耕地の風景となっている。		
	動物	過去の調査により、哺乳類 13 種、鳥類 70 種、爬虫類 12 種、両生類 7 種、昆虫類 1057 種、魚類 8 種等の生息が確認されている。	植物	過去の調査により、植物は 207 種の生育が確認されている。
社会的条件	歴史的要素	保全協定締結対象区域内には埋蔵文化財の包蔵地はないが、隣接する樹林地や畑地では縄文や古墳時代の土器や土師器が出土している。	施設	対象区域内には特に施設はない。 谷津田の最上流部となる南側樹林地に隣接してゴルフ場（ヌーヴェルゴルフクラブ）と千葉県大網高等学校の農場がある。
	周辺開発	対象区域の北側には高速道路（千葉東金道）が隣接し、約 500m先に山田 ICがある。 また周辺には対象区域の南東約 1km に約 25 年前に谷津田や樹林地を造成して造られた季美の森住宅団地（大網白里市）がある。	計画	対象区域は「市街化調整区域」に指定されており、開発行為は原則として制限されている。 保全協定締結対象区域内の大半の農地が開発業者による保留地となっているが、令和 3 年 3 月時における開発計画は公表されていない。
活動状況	・NPO 法人ちば環境情報センターが、2000 年頃より谷津田プレーランドプロジェクトとして自然観察会とゴミ拾い、谷津田の米づくり講座を実施し、ちば里山くらぶとして林や田んぼ周辺の手入れを実施している。 ・環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」（全国 500 箇所、千葉県 19 箇所、千葉市に 2 箇所）に指定されている。 ・NPO 活動は多彩かつ活発であり、谷津田や米作りに興味を持つ一般の人（大人、子供、友達、家族等）も参加できるよう様々なイベントを定期的に実施している。			



航空写真

出典は国土地理院ホームページ（2010 年 10 月 11 日撮影）



保全協定締結対象区域詳細

令和 3 年 3 月 31 日現在

※優先度は A、B、C の 3 段階。詳細は「別紙 保全の方向性」を参照のこと

今後の方向性	優先度 A※	市とボランティア等が協力し、優先的に森林部分の保全を実施していく地区
	約 20 年前から NPO による保全活動が行われており、谷津田整備だけでなく、山林整備も実施している。また、散歩、散策の場所として市民が利用している。 今後の対応として、現在樹林管理をする NPO があることから、優先的に市は NPO と協力し、樹林の保全策を検討・実施する。また、市民利用の実績がある地区のため、谷津田の価値を高め、環境を維持するための施策も合わせて検討・実施する。	
特性等	・集水区域内には上流部に開発等の改変が見られるが、対象谷津と周辺樹林は昔からの環境が概ね残っている。 ・谷津田の下流域と上流域はほぼ営農放棄されており、水田として利用されているのは中流域付近でのみとなっている。 ・NPO の調査により、里山に生育・生息する重要種が多く確認されている。 ・NPO により谷津田の保全活動や維持管理、周辺林の緑化や自然観察会等が行われている。 ・令和元年の台風 15 号の強風により、スギやシラカシなど多くの倒木が発生した。撤去が進んだ場所もあるが、放置されているものも多くみられる。 ・コナラ林では、間伐、下草刈り、落葉掻き等が実施されている場所が見られる。 ・管理されていないコナラ林やシラカシ林内ではアズマネザサが繁茂している場所が見られる。 ・谷津田のうち長期間耕作放棄されたものは、ヨシやヤナギ低木林、エノキ林等への遷移が進んでいる。 ・谷津田沿いには農道が整備されているため、現在は地元住民の散歩や散策に利用されている。	
樹林保全対策（群落別・環境別）	①シラカシ群落、コナラ群落 ・アズマネザサが密生する場所は適度な刈込を行い、多年生草本の生育環境の創出に努める。 ・重要な植物種の生育地になっている場合は、事前に調査を行った上で過度は刈込を行わないよう注意する。 ・令和元年の台風により発生した倒木が放置されている場所は、危険度や周辺の植生に与える影響等から判断して、順番に撤去、移動し、片付け等の整備を行う。 ②ヤナギ低木群落 ・放棄水田が遷移してヤナギ低木群落になった場所は遷移の拡大を防ぐため、ヤナギの伐採や、周辺への拡大を防止のための刈込を行う。 ③竹林、アズマネザサ群落 ・竹が密に繁茂している場所は適度に刈込を行う。枯死した竹は整理、除去する。隣接する森林への拡大防止を徹底する。 ④谷津田 ・営農していない水田を中心に草刈り等の管理を実施する。 ・多様な植生を維持するため、セイトカアワダチソウ等の外来植物は積極的に除去するが、ヨシやガマ等の湿性高茎草本が生育する場所は現状を維持する程度に管理し、過度な草刈り等は行わないよう注意する。	

No.7 下大和田(猿橋)の
植生分布と管理状況



アスマネザサ群落。
放棄水田に成立した群落。特に管理なし。



伐採跡地群落。鉄塔周辺のイヌザクラ、コブシ
等の保全地。



コナラ群落。特に管理なし。



アズマネザサの高さは低く疎生しているため、
最近まで管理されていた可能性あり。



アスマネザサ群落。林内の様子。



ヤナギ低木群落。放棄水田に成立した先駆的
な群落。特に管理なし。



コナラ群落。管理団体が林床管理を実施。



エノキ群落。放棄水田後の先駆的な群落。



シラカン群落。特に管理なし。



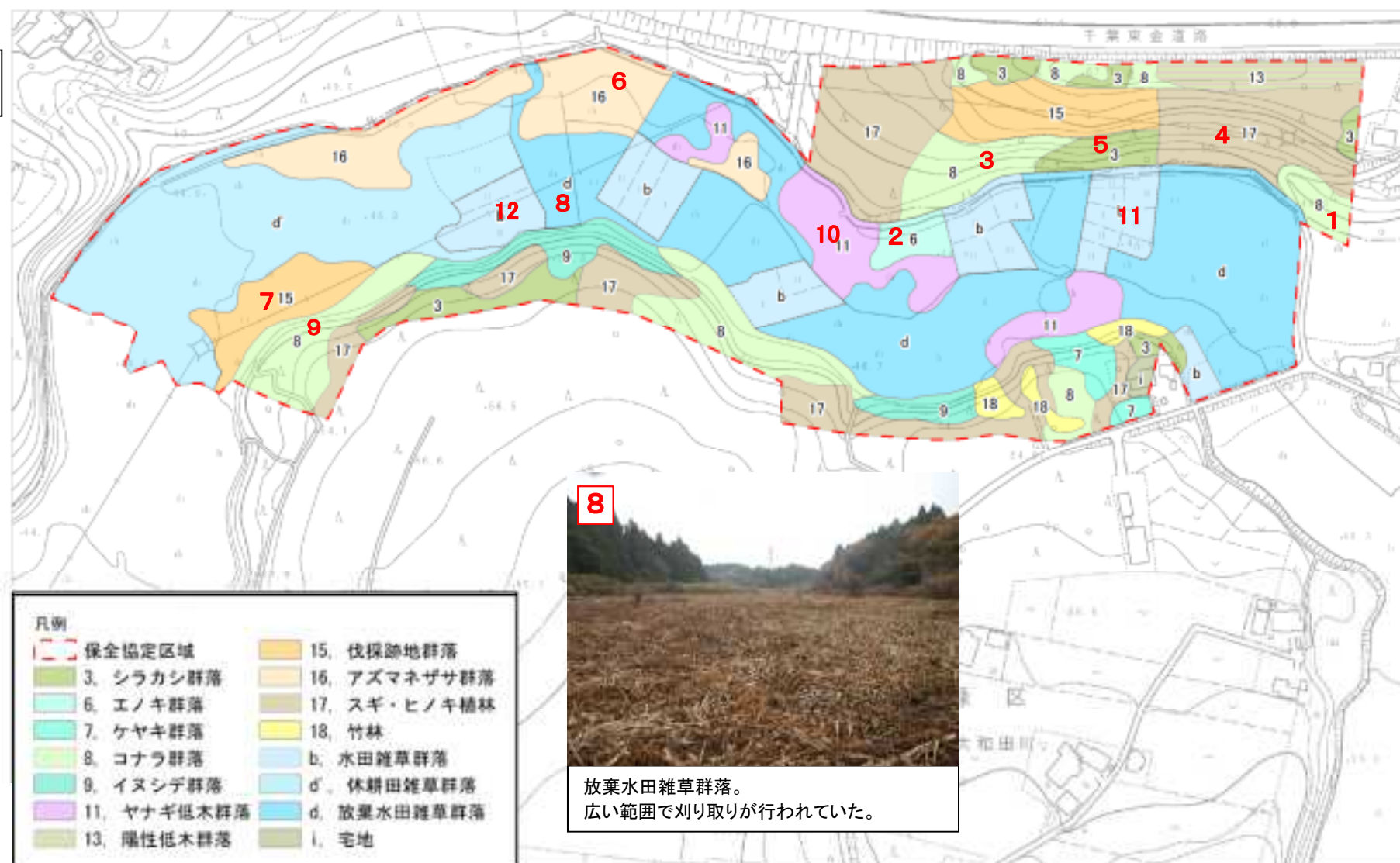
スギ植林。風倒木を伐採、整理した跡。



コナラ群落。モウソウチクが侵入、ごみの投棄
あり。特に管理なし。



スギ植林。風倒木が放置されている。



放棄水田雑草群落。
広い範囲で刈り取りが行われていた。



水田の状況。冬季も湛水している。



水田の状況。

No. 8	千葉中（中野 IC）		
主な所在地： 若葉区中野町の一部		集水域面積：	37 h a
水系： 鹿島川（鹿島川流域）		対象区域：	9 h a
谷津田のタイプ： C、谷津健在圃場整備型		保全協定締結対象区域：	1.96 h a
位置付け： 谷津田等保全地区（非優先地区）		谷津田保全協定締結地：	0.40 h a

地域森林計画	区域番号	42 は		
	千葉市森林整備計画の位置付け	区分	水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	
		施業の方法	伐期の延長を推進すべき森林	
保全状況	・対象区域の谷津田は水田耕作が放棄されてからかなりの年月が経過しており、放棄水田はヨシ、セイタカアワダチソウ等が繁茂している。また、部分的にヤナギ等の先駆的な植物が侵入し、低木層が形成されている場所もある。 ・ため池が 3 つあり、水はあるが池底部分に泥が堆積しており、過去と比較すると水深が浅くなっていると思われる。 ・谷津田周辺の樹林や竹林では、下草刈り、枝打ち、落ち葉掻き、倒木等の撤去は最近行われた形跡はない。 ・竹林内にタイヤなどの廃棄物が投棄された場所がある。 ・谷津田の南東にあるコナラ群落の林内の状況から、数年前まで下草刈り等の管理が行われていた可能性がある。			
自然条件	地形	対象区域は千葉市南東部の丘陵地に位置している。地形は小起伏丘陵地に分類されるが谷底部と丘陵地との高低差は少ない。また、谷津の途中を高速道路により南北に分断されている。	水系	谷津から流れ出た水は約 100m離れた鹿島川に流れ込む。なお、鹿島川は昭和の森を水源とし、印旛沼へ流れ込む全長 31.8km の一級河川である。このうち、下大和田西谷津からの水が流れ込むのは、鹿島川の上流域である若葉区の和泉町付近である。
	景観	対象区域の上流側は耕作放棄され草地となり荒廃した印象を受ける。高速道路の北側となる中下流側は耕作が継続的に行われており、耕作放棄地がないため、里山的な風景となっている。		
	動物	過去の調査により、哺乳類 1 種、昆虫類 3 種、魚類 1 種等の生息が確認されている。	植物	過去の調査により、植物は 65 種の生育が確認されている。
社会的条件	歴史的要素	保全協定締結対象区域内に埋蔵文化財の包蔵地は確認されていない。周辺には区域の北東側に縄文から平安時代及び近世にかけての住居跡や土器が出土した「僧御堂遺跡」、南東側に縄文から平安時代にかけての土器や土師器が出土した「ミノグチ北遺跡」がある。	施設	対象区域内のため池近くに農作業の小屋があるが荒廃しており現在は使用されていない。
	周辺開発	対象区域の北側に隣接して高速道路（千葉東金道）があり、約 300m先に中野 IC がある。高速道路の北側には 2016 年にオープンしたキャンプ場や乗馬施設を併設した会員制ゴルフ場（東京クラシッククラブ）がある。	計画	対象区域は「市街化調整区域」に指定されており、開発行為は原則として制限されている。
活動状況	・令和 3 年 3 月現在活動中の団体はない。 ・対象区域の谷津田に人が立ち入った形跡がないことと、谷津田内や樹林の荒廃が進行していることから、散歩や自然観察等の利用はほとんどないと考えられる。			



※優先度は A、B、C の 3 段階。詳細は「別紙 保全の方向性」を参照のこと

今後の方向性	優先度 C※	市は当面は必要に応じて緊急対策（風倒木の整理やナラ枯れ等）を行う。今後、放棄水田や周辺林の荒廃を防ぐ対策を検討する地区。
	対象区域では耕作は行われておらず、すべて放棄された状態となっている。周辺に人家少なく、谷津田内に農道が整備されていないため、市民の利用はほとんどないと考えられる。 今後の対応として、NPO 等がいないことから、当面は樹林の保全策は行わず、必要に応じて緊急対策のみを実施する。また、現在は市民利用がほとんどないが、谷津田の荒廃がかなり進んでいることから、将来的に谷津田と周辺樹林の環境を健全に保ち、市民利用が可能となるための施策を市が中心となって検討・実施する。	
特性等	・谷津田は高速道路で分断されており、高速南側の上流部の水田は長期間耕作放棄され、ため池も管理されず放置された状態である。一方、谷津田の中流から下流部となる高速北側は大部分が水田利用されている。 ・周辺林は一部に太陽光施設の設置があるが、大部分は連続的に残存している。 ・ボランティア等による谷津田の保全活動や維持管理は行われていない。 ・周辺に人家は少なく、農道の整備状況から見て市民の利用（散歩、散策、自然観察）はほとんどない。 ・長期間放棄された水田では、荒廃が進み、草地環境からヤナギ等低木林への遷移が見られる。 ・谷津田周辺の樹林や竹林はコナラ林の一部で下草刈り等が行われた形跡があるが、大部分は放置された状態である。 ・管理がされていない林内では林床にアズマネザサが繁茂している場所が多い。 ・令和元年の台風 15 号の強風により、スギやシラカシなどに多くの倒木が発生し、放置されているものが多くみられる。	
樹林保全対策（群落別・環境別）	①コナラ群落、イヌシデ群落、シラカシ群落、スギ・ヒノキ植林 ・アズマネザサが密生する場所は適度な刈込を行い、多年生草本の生育環境の創出に努める。 ・令和元年の台風により発生した倒木が放置されている場所は、危険度や周辺の植生に与える影響等から判断して、順番に撤去、移動し、片付け等の整備を行う。 ②ヤナギ低木群落 ・放棄水田が遷移してヤナギ低木群落になった場所は遷移の拡大を防ぐため、ヤナギを伐採し、周辺への拡大を防止する。 ③竹林、アズマネザサ群落 ・竹が密に繁茂している場所は適度に刈込を行う。枯死した竹は整理、除去する。隣接する森林への拡大防止を徹底する。 ④谷津田 ・放棄水田を中心に草刈り等の管理を実施する。また、現在、中流域から上流域にかけては長期間耕作が行われていないため、農道等通行できる道がない状態である。今後の管理や市民の利用の観点から、人が移動できる程度の道を整備する。 ⑤ため池の管理 ・ため池は多様な生物の生育、生息場所として重要であるため、継続的に利用できるよう水深が浅くなった場合は、溜まった泥の掻き出しや等の管理を行う。	

No.8 千葉中(中野 IC)の
植生分布と管理状況



10 谷の上流部。落ち葉が堆積している。



11 放棄水田雑草群落。
セイタカアワダチソウが生育している。



5 竹林の状態。特に管理はなし。



4 ヤナギ低木群落(タチヤナギ)。
放棄水田に成立した先駆的な群落。



12 放棄水田雑草群落。ヨシが生育している。



5 竹林内は倒伏した稈が放置されている。



9 コナラ群落の林内。比較的最近まで管理が実施されていたと思われる。



7 コナラ群落。
林床にアスマネザサが繁茂。
特に管理なし。



6 イヌシデ群落の林内。



8 シラカシ群落の林内。特に管理なし。



3 シラカシ群落の林内。特に管理なし。



3 隣のスギ植林の風倒木が倒れ込んでいる。



1 竹林内は倒伏した竹が放置されている。



1 竹林内に廃タイヤ等のゴミが投棄されている。



2 エノキ群落。
アスマネザサが繁茂。
マダケが侵入。



13 ため池の状況。



14 「谷津田等の保全区域」看板。



No. 9	赤井		
主な所在地： 中央区赤井町の一部		集水域面積：	199 h a
水系： 生実川（村田川下流域）		対象区域：	56 h a
谷津田のタイプ： A、谷津改変型		保全協定締結対象区域：	1.89 h a
位置付け： 谷津田等保全地区（非優先地区）		谷津田保全協定締結地：	1.26 h a

地域森林計画	区域番号	55り		
	千葉市森林整備計画の位置付け	区分	快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	
		施業の方法	複層林施業を推進すべき森林（択伐によるものを除く）	
保全状況	・対象区域の谷津田は耕作が放棄されてからかなりの年月が経過しており、ヨシ、オギ等が繁茂している。また、ヤナギやクズが生育し、エノキの低木林が形成されている場所もある。 ・区域内にある果樹園（ウメ）と竹林は、下草刈りや倒伏した竹の整理が行われている。 ・谷津田周辺の樹林では、下草刈り、枝打ち、落ち葉掻き、倒木等の撤去が最近行われた形跡はない。 ・区域内には自然度の高い群落としてスダジイ群落が存在している。スダジイは高さ 20mを超えるものが多く生育しており、林内は薄暗く、下草も少ない極相状態となっている。 ・スギ、ヒノキ植林内には台風等の影響で倒れた木が見られるが、そのまま放置された状態である。			
自然条件	地形	対象区域は千葉市南西部の台地に位置している。ローム台地に形成された谷津は、谷底部と台地との高低差は少なく地形も複雑ではない。	水系	谷津田から流れ出た水は約 200m離れた生実川に流れ込む。なお、生実川は中央区花輪町の台地を水源とし、途中の生実池を経由して東京湾に流れ込む全長 4.6km の二級河川である。このうち、赤井区域の水が流れ込むのは、生実池の上流部にあたる中央区の大蔵寺町付近である。
	景観	対象区域の谷津田部分は耕作放棄されて草地となり荒廃した印象を受ける。なお、樹林部分はスダジイ群落が南側の斜面部分に分布しており、大径木が多いことからうっそうとした外観となっている。		
	動物	過去の調査により、鳥類 3 種、爬虫類 4 種、両生類 5 種、昆虫類 27 種、魚類 8 種等の生息が確認されている。	植物	過去の調査により、植物は 99 科 301 種の生育が確認されている。
社会的条件	歴史的要素	保全協定締結対象区域内には中央から西側の樹林から台地部分にかけて「後谷遺跡（包蔵地）」がある。また、周辺には区域の東側に円墳である赤井古墳群や、縄文から平安時代にかけての住居跡や土器が出土した「榎作遺跡」がある。	施設	対象区域内には特に施設はない。周辺では対象区域の北側の台地上はかつて畑地だったが、近年は宅地化が進んでいる。また、対象区域の東側の谷津内にはかつて水田だった場所に老人福祉施設とその駐車場が建設されている。
	周辺開発	対象区域から約 200m南西側に外房線があり、500m東側に京成千原線がある。周辺部はかつて農耕地であったが京成千原線の建設に伴い、住宅開発が進み、外房線の南側には千葉県でも最大規模となる土地区画整理事業が実施され、おゆみ野ニュータウンが造られた。	計画	対象区域は「市街化調整区域」に指定されており、開発行為は原則として制限されている。
活動状況	・令和 3 年 3 月現在活動中の団体はない。 ・耕作放棄地は管理されておらず、クズやヨシ等の植物が繁茂している。一方、区域内には果樹園（梅）や竹林があるが、草刈りや倒伏した竹の整理等が行われた形跡があることから、一部で管理は行われていると考えられる。			



※優先度は A、B、C の 3 段階。詳細は「別紙 保全の方向性」を参照のこと

今後の方向性	優先度 C※	市は当面は必要に応じて緊急対策（風倒木の整理やナラ枯れ等）を行う。今後、放棄水田や周辺林の荒廃を防ぐ対策を検討する地区。
	対象区域では水田耕作は行われておらず、わずかな畑地と果樹園を除いて放棄された状態となっている。周辺に住宅は多いが、谷津田内に農道が整備されていないため、区域内の市民の利用はほとんどないと考えられる。 今後の対応として、NPO 等がないことから、当面は樹林の保全策は行わず、必要に応じて緊急対策のみを実施する。また、現在は市民利用がほとんどないが、谷津田の荒廃がかなり進んでいることから、将来的に谷津田と周辺樹林の環境を健全に保ち、市民利用が可能となるための施策を市が中心となって検討・実施する地区とする。	
特性等	・対象区域の谷津田は耕作されなくなって長期間が経過しており、ヨシ、ヤナギ低木林、エノキ林等への遷移が進んでいる。 ・周辺には大規模な住宅地（生実町、大蔵寺町、おゆみ野等）があり、この地域に残された数少ない谷津田とまとまった緑地の一つ。谷津田中央には水路があるが、農道等の道がないため、谷津田内を下流から上流に移動することはできない。 ・谷津田の周辺林は一部が切り開かれ外房有料道路、京成千葉線、介護施設、リサイクル施設等に利用されているが、大半の樹林は改変されない状態で残存している。 ・ボランティア等による谷津田の保全活動や維持管理は行われていない。 ・周辺の人口は多いが、谷津田の整備状況（農道がない）から見て市民の利用（散歩、散策、自然観察）はほとんどない。 ・自然度の高いスダジイ群落内には大径木が多く、林内に下草は少ない。 ・谷津田及び周辺の樹林は竹林や果樹園などの一部で草刈り等が行われた形跡があるが、大部分は放置された状態である。 ・スギ、ヒノキ植林内には、令和元年の台風 15 号等の強風により倒木が発生し、放置されているものが多くみられる。	
樹林保全対策（群落別・環境別）	①イヌシデ群落、スギ・ヒノキ植林 ・林床に草本植物、低木、アズマネザサが密生する場所は適度な刈込を行い、多年生草本の生育環境の創出に努める。 ・令和元年の台風により発生した倒木が放置されている場所は、危険度や周辺の植生に与える影響等から判断して、順番に撤去、移動し、片付け等の整備を行う。 ②ヤナギ低木群落、エノキ群落 ・放棄水田が遷移してヤナギ低木群落やエノキ群落になった場所は遷移の拡大を防ぐため、ヤナギやエノキの伐採や、周辺への拡大を防止のための適度な刈込を行う。 ③竹林 ・竹が密に繁茂している場所は適度に刈込を行う。枯死した竹は整理、除去する。隣接する森林への拡大防止を徹底する。 ④谷津田 ・放棄水田を中心に草刈り等の管理を実施する。 ・現在、長年耕作が行われていないため、谷津の中を通行できる農道等がない状態である。そのため、今後の管理や市民の利用の観点から、人が移動できる程度の道を整備する。	

No.9 赤井の 植生分布と管理状況



スダジイ群落。自然度が高い。



低木層に常緑植物が繁茂。特に管理なし。



エノキ群落。放棄水田跡の先駆的群落。



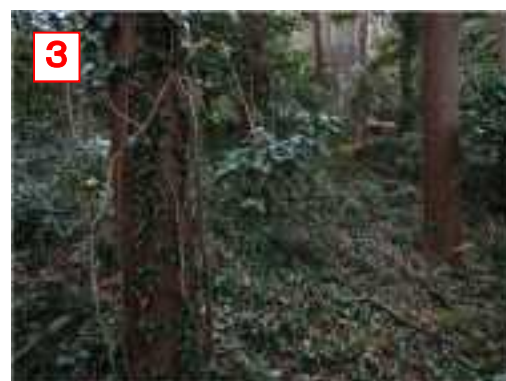
林床にはクズが繁茂している。特に管理なし。



イヌシデ群落。
低木層、亜高木層に常緑植物が繁茂。



イヌシデ群落の林床。草本層は疎ら。



スギ植林の林床。特に管理なし。



風倒木が放置されている。



竹林の外観。



竹林内は倒伏した竹の整理が行われている。



スダジイ群落。自然度が高い。



スダジイ群落の林床。草本層は疎ら。



スギ植林内の
風倒木の
状況。



イヌシデ群落
内の風倒木
整理状況。



- 凡例
- 保全協定区域
 - 1. スダジイ群落
 - 6. エノキ群落
 - 9. イヌシデ群落
 - 11. ヤナギ低木群落
 - 13. 陽性低木群落
 - 17. スギ・ヒノキ植林
 - 18. 竹林
 - 46. ヨシクラス
 - 48. オギ群落
 - a. 畑地雑草群落
 - c. 放棄畑地雑草群落
 - e. 果樹園



谷津にある果樹園(梅)



谷津にある小規模な畑地

No.10	金親	
主な所在地：	若葉区金親町の一部	集水域面積：222 h a
水系：	鹿島川（鹿島川流域）	対象区域：44 h a
谷津田のタイプ：	B、谷津健在圃場未整備型	保全協定締結対象区域：7.09 h a
位置付け：	谷津田等保全地区（非優先地区）	谷津田保全協定締結地：6.01 h a

地域森林計画	区域番号	11 ち、11 め		
	千葉市森林整備計画の位置付け	区分	快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	
		施業の方法	複層林施業を推進すべき森林（択伐によるものを除く）	
保全状況	・谷津田の入り口付近では水田耕作が継続されている。また、隣接する休耕田は草刈り等の管理が実施されている。さらに上流部に位置する放棄水田では管理は行われておらず、ヨシ原への遷移が進んでいる。 ・北東に位置するコナラ林では部分的に草刈りや落ち葉掻き、倒木整理等が行われている。 ・スギ・ヒノキ植林内では特に管理は行われておらず、アズマネザサが繁茂している。 ・竹林内では特に管理は行われておらず、倒伏した竹が放置されている。また、隣接するシラカシ林に分布を拡大している場所も見られる。			
自然条件	地形	対象区域は千葉市北東部の台地部に位置している。ローム台地に形成された谷津は、谷底部と台地との高低差は少なく、地形も複雑ではない。	水系	谷津田からの湧水は約 2km 離れた鹿島川に流れ込む。なお、鹿島川は昭和の森を水源とし、印旛沼へ流れ込む全長 31.8km の一級河川である。このうち、金親谷津田からの水が流れ込むのは、鹿島川の中上流域である若葉区の大井戸町付近である。
	景観	湧き水を水源とした田んぼとその周辺にはコナラやクヌギなどが生育する広葉樹林やシラカシなどが生育する常緑広葉樹林があり、いわゆる里山の風景が残っている。		
	動物	過去の調査により、哺乳類 1 種、爬虫類 2 種、両生類 2 種、昆虫類 2 種、魚類 2 種等の生息が確認されている。	植物	過去の調査より、植物は 247 種の生育が確認されている。
社会的条件	歴史的要素	保全協定締結対象区域内には西側の樹林から台地部分にかけて「外百楽古墳」と「外百楽遺跡」があり、奈良時代から平安時代の土器等が出土している。	施設	対象区域内には特に施設はない。 谷津上流部南側には、住宅地に隣接して二つの池がある「御成公園」があり自然公園として地域住民に散策やバードウォッチング等に利用されている。
	周辺開発	対象区域の南西約 1.2km には千葉都市モノレールの終点である千城台駅があり、駅の北側にあたる千城台東地区、御成台地区、四街道市鷹の台地区は約 30 年前に谷津田や樹林地が造成され宅地開発が行われた。	計画	対象区域は「市街化調整区域」に指定されており、開発行為は原則として制限されている。また、当区域に隣接する千城台東地区、御成台地区は第一種低層住居専用地域となっている。
活動状況	・令和 3 年 3 月現在活動中の団体はない。 ・コナラ林の管理を行っているのは土地所有者だと思われる。			



今後の方向性	優先度 B ※	市は当面は必要に応じて緊急対策（風倒木の整理やナラ枯れ等）を行う。 市民利用があるため将来的に森林等の保全を検討する地区。
	現在、谷津の入口付近は耕作されているが、上流部は放棄された状態である。樹林は一部で草刈りや落ち葉掻き等が見られるが、大部分はほとんど管理が行われていない状態である。 今後の対応として、NPO 等がないことから、当面は樹林の保全策は行わず、必要に応じて緊急対策のみを実施する。なお、周辺には大規模な住宅地があり、市民の谷津田に対する潜在的な需要は十分あると考えられることから、谷津田環境を健全に維持することを目的に、将来的には森林の保全策を検討・実施する。	
特性等	・集水域内は上流部等開発等の改変が見られるが、対象谷津と周辺樹林は昔からの環境が概ね残っている。 ・湧水を源流とする小水路があり、湿地や湧水を利用した水田がある。 ・ボランティア等による谷津田や周辺樹林の保全活動や維持管理は行われていない。 ・コナラ林では草刈りや落ち葉掻きが行われている場所がある。 ・管理されていない林内では林床にアズマネザサが繁茂している場所が多い。また、風倒木の大半が放置されている。 ・谷津田は入口から中流までは水田となっているが、中流から上流までは耕作放棄されておりアズマネザサやヨシが繁茂している。 ・周辺には大規模な住宅地（御成台、千城台、四街道市鷹の台）があり、住宅地に近い谷津田となっている。水田沿いには農道があり、御成台や千城台方向へつながっているため、地元住民は散歩や散策に利用していると考ええる。	
樹林保全対策（群落別・環境別）	①コナラ群落、イヌシデ群落 ・アズマネザサが密生する場所は適度な刈込を行い、多年生草本の生育環境の創出に努める。 ②スダジイ群落、シラカシ群落、スギ・ヒノキ植林 ・スダジイ群落とシラカシ群落は比較的自然度の高い安定的な植生であり、重要な植物種の生育地になっている場所は無用な立ち入りを防止して、現状を維持する。また、スギ・ヒノキ植林内にも重要な植物種の生育地があるため、留意して管理を行う。 ・アズマネザサが密生する場所は適度な刈込を行い、多年生草本の生育環境の創出に努める。 ・令和元年の台風により発生した倒木が放置されている場所は、危険度や周辺の植生に与える影響等から判断して、順番に撤去、移動し、片付け等の整備を行う。 ③竹林、アズマネザサ群落 ・竹が密に繁茂している場所は適度に刈込を行う。枯死した竹は整理、除去する。隣接する森林への拡大防止を徹底する。 ④谷津田 ・放棄水田を中心に草刈り等の管理を実施する。 ・多様な植生を維持するため、ヨシやガマ等の湿性高茎草本等が生育する場所は現状を維持する程度に管理し、過度な草刈り等は行わないよう注意する。	

No.10 金親の
植生分布と管理状況



シラカシ群落。
林床にマダケが侵入。特に管理なし。



コナラ群落。シラカシの優占度が高く、林床に
アズマネザサが繁茂している。



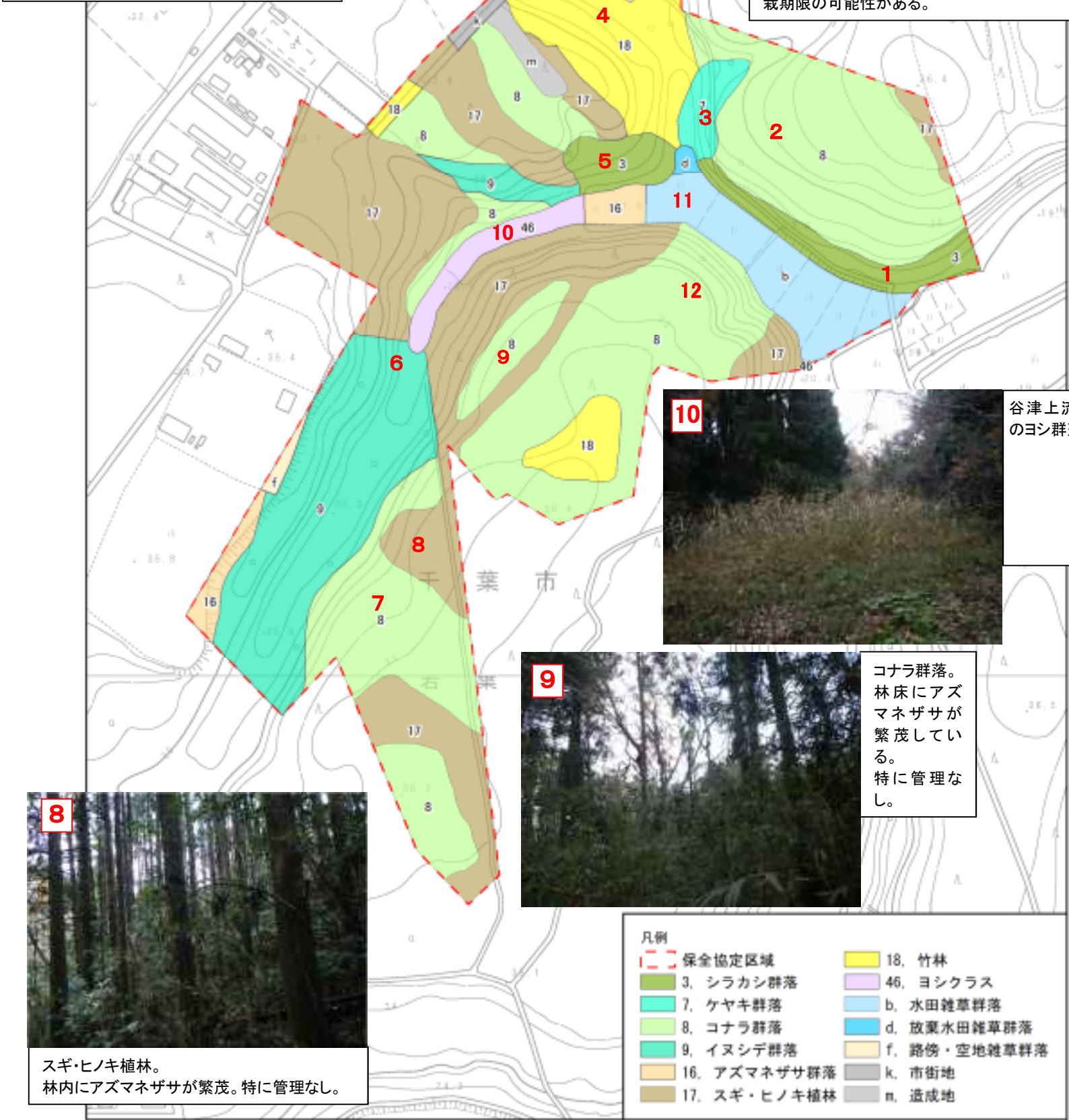
コナラ群落。林内にアズマネザサが繁茂。



コナラ群落。風倒木の大半が放置されるが、
一部整理が行われている。



竹林内。倒伏した竹が放置されている。



イヌシデ群落。生育状況から、境界木等の植
栽期限の可能性はある。



コナラ群落の
林内。草刈り
が行われてい
る。



コナラ群落の
林内。草刈り
や、落ち葉掻
き、枝の積上
げ等が行われ
ている。



シラカシ群落。
草刈り等の管
理は行われて
いない。



谷津上流域
のヨシ群落。



コナラ群落。
林床にアズ
マネザサが
繁茂してい
る。
特に管理な
し。



営農中の谷津
田。



コナラ群落内
の落ち葉掻き
実施状況。



スギ・ヒノキ植林。
林内にアズマネザサが繁茂。特に管理なし。